

東海道神奈川宿名物
亀の甲せんべい資料集

NO IMAGE

横浜市神奈川図書館編・発行

目 次

- 第1部・歴史編 ある東海道名物・亀の甲せんべい物語
.....pp01～10
- 第2部・資料編Ⅰ 資料でたどる“亀の甲せんべい”
.....pp11～26
- 第3部・資料編Ⅱ 『関口日記』にみる幕末・明治期の煎餅事情
.....pp27～52

□表紙イラスト出典： 「鶴殺疾刃庖刀」（『定本円朝全集』第5巻）より

第1部・歴史編

ある東海道名物・亀の甲せんべい物語

「ある東海道名物・亀の甲せんべい物語」初出一覧

第1回	『神奈川新聞』	2001年1月4日(木)	19ページ	(文化面)
第2回	『神奈川新聞』	2001年1月7日(日)	15ページ	(文化面)
第3回	『神奈川新聞』	2001年1月9日(火)	12ページ	(文化面)
第4回	『神奈川新聞』	2001年1月11日(木)	12ページ	(文化面)
第5回	『神奈川新聞』	2001年1月14日(日)	15ページ	(文化面)
第6回	『神奈川新聞』	2001年1月16日(火)	14ページ	(文化面)
第7回	『神奈川新聞』	2001年1月18日(木)	14ページ	(文化面)
第8回	『神奈川新聞』	2001年1月21日(日)	23ページ	(文化面)
第9回	『神奈川新聞』	2001年1月23日(火)	14ページ	(文化面)
第10回	『神奈川新聞』	2001年1月25日(木)	12ページ	(文化面)

ある東海道名物—
亀の甲せんべい物語 ①

冊子でご覧ください

ある東海道名物—
亀の甲せんべい物語

②

冊子でご覧ください

ある東海道名物—
亀の甲せんべい物語

③

冊子でご覧ください

冊子でご覧ください

ある東海道名物—
亀の甲せんべい物語

⑤

冊子でご覧ください

ある東海道名物—
亀の甲せんべい物語[®]

冊子でご覧ください

冊子でご覧ください

冊子でご覧ください

ある東海道名物—
亀の甲せんべい物語

⑨

冊子でご覧ください

冊子でご覧ください

第2部・資料編 I

資料でたどる “亀の甲せんべい”



1 江戸期(1)

『神奈川砂子』(煙管亭喜莊著 文政7年<1824年>)

神奈川名産

中興名品 亀甲煎餅 元祖 青木町 若菜屋 (※『横浜市文化財調査報告書』第2輯p56)

『鎌倉江ノ島大山新板往来双六』(柳亭種彦撰 前北斎為一画 天保2年<1831年>)

神奈川 程が谷へ一里九丁

駅中の橋を滝のはしといふ 近年亀の子せんべいといふもの名だかし(※復刻版『鎌倉・江ノ島・大山新板往来双六』)

『附込日記帳 天保九年』(天保9年<1838年>)

(四月)十六日丁巳晴天

青木町八百屋与四郎無尽取立候処鬮老本不足ニ付加入致呉候様可吉相頼候間無抛加入今日初会ニ而東作参ル 連中名前 三橋源兵衛 嶋屋惣兵衛 小西屋藤介 若菜屋次介 飯田屋次兵衛 名古屋新八 大黒屋才三郎 羽沢屋佐兵衛 遠州屋勘六 亀田屋市五郎 吉田勘兵衛 兵庫屋新三郎 新宿浜市五郎 池辺村清次郎 柳下林之助 伊勢屋又吉 関口東作 会主与四郎(※『関口日記』第8巻 p214)

『細見神奈川絵図』(天保15年<1844年>)

名物

亀ノ甲煎餅 黒葉(※『東海道と神奈川宿』p45)

『温泉土産箱根草』(滝亭鯉丈著 天保15年<1844年>)

宮「なにが爰じやァ名物だらう。木賀「名物なら、先亀の子煎餅サ。宮「べらぼうめへ、煎餅が酒の肴になるものかィ。木賀「そんなら、酒の肴になる名物は何だ、と聞けばいゝに、たゞ名ぶつとばかり言から亀の子せんべいと言たのだ。(※『神奈川県郷土資料集成』第10輯・絵草紙篇p183)

『江ノ島参詣之記(書写)』(森七三郎著 弘化2年<1845年>)

○神奈川宿 程ヶ谷寺り九丁 名物亀甲煎餅元祖(※『神奈川県郷土資料集成』第6輯・相模国紀行文集 p166)

『附込日記帳 弘化四年』(弘化4年<1848年>)

(十二月)十五日庚申晴天

今夜子刻頃神奈川滝之橋大和屋万助方米春場より出火山側若菜屋より嶋屋伝吉迄焼南側八百屋与四郎より浜屋迄 大黒屋は無難ニ而済(※『関口日記』第11巻p35)

『金川日記』(佐藤二栖著 嘉永4年<1851年>)

(六月)十四日

亀の甲煎餅一折 間瀬源エ門(※『郷土よこはま』24・25号)

『東海道遊歴双六』(初代広重画 嘉永5年<1852年>)

神奈川

亀ノ甲煎餅(※『東海道と神奈川宿』p17、『日本絵双六集成』p17、『収蔵資料展』1 p42)

『江之島鎌倉金沢え之旅行日記』(安政五年<1858年>)

(四月三日)

百文 神奈川 亀甲せんべい (※『神奈川県郷土資料集成』第6輯・相模国紀行文集 p157)

(四月六日)

壹分壹朱ト拾六文 神奈川 滝之橋若菜や 亀甲せんへいみやけ物 (※同書 p159)
みやけ物凡々

神奈川 亀の甲せんべい

品川 三百文ツ、弍袋 百分ツ、五ツ袋

神田 弍百文ツ、弍袋 百文壹袋

音羽 百文ツ、三袋

駿河だい 弍百文壹袋 (※同書 p161)

『金川日記』(佐藤三栖著 安政4年<1857年>)

(一月) 二日

滝之町

大和屋角蔵 三橋源兵衛 ○八百や与四郎 若葉や治介 ○御本陣鈴木源太左衛門
伊豆屋 六軒 (※『郷土よこはま』24・25号)

『金川日記』(佐藤三栖著 安政6年<1859年>)

巳年年玉入納覚

滝の町

林玄庵 若葉や治介 鈴木源太左衛門 三橋源兵衛 八百屋与四 (※『郷土よこはま』28・29号)

『御開港横浜之全図』(橋本玉蘭斎画 安政6年<1859年>)

名物亀甲煎餅 (※復刻版『御開港横浜之全図』)

『御開港横浜一覽双六』(一恵斎芳幾写 万延元年<1860年>)

亀の甲せんべい (※『横浜開港資料館所蔵瓦版・浮世絵目録』p27、152)

『珍事五ヶ国横浜はなし』(南草庵松伯著 文久2年<1862年>)

御陳屋は青木町のうしろにあり。見張御番所は同町の上の高き権現山にあるなり。「此下に当宿名代の亀の甲せんべい名物あり。外にも御座候得共、是則元祖なり。(※『神奈川県郷土資料集成』第2輯・開港篇 p268)

『東海道風景図会』(慶応元年<1865年>)

神奈川

名物亀の甲せんべい、遠近に賞翫なすをもて、是にるゐするもの、所々に見ゆ (※『道中記集成』第35巻 p14)

『増補再刻御開港横浜之全図』(橋本玉蘭斎画 慶応2年<1866年>)

亀甲煎餅 (※『東海道と神奈川宿』p32)

2 江戸期(2)(年代不詳)

『旅枕五十三次』(水沢山人玉の門主人著 文政4年<1821年>以降)

名物亀の甲せんべい 滝のはしわかなやをよしとす(※『東海道神奈川宿の都市的展開』p34、『今昔東海道独案内』p41より引用)

『東海道(五十三次)名所名物図会』(二代広重? 江戸時代後期)

神奈川 亀ノ甲煎餅(※『東海道と神奈川宿』p67、『収蔵資料展』1 p15)

『東海駅路狂歌寿娘録』(初代広重画 弘化嘉永頃)

加奈川 亀の甲せんべい

占かたハしらぬ子等さへせんへいの亀の甲やく五月雨の頃(天童 文歌堂)

せんへいの亀の甲をもやきあけて日和と雨の□□□□□する(?の住安)

(※『東海道と神奈川宿』p20、『マイウェイ』No.39p11、『すごろく』2 p106-107、

『収蔵資料展』1 p43)

『東海道木曾路新版振分道中双六』(一立斎広重画)

かな川 程ヶやへーり九丁

名物 かめのこせんべい(※復刻版『東海道木曾路新版振分道中双六』)

3 明治期

『書画五拾三駅 武蔵神奈川横浜眺望』(光斎画 明治5年)

(※『東海道と神奈川宿』p67)

『一等東海道往還武蔵国橋樹郡神奈川駅地内字滝ノ橋之台修繕出来形帳』(差出人：第三大区一小区代議人惣代橋本治助ほか 明治9年)

(※『横浜市史料所在目録』第6集p13)

『附込日記帳 明治12年』(明治12年)

(十二月) 二十六日癸未晴天

今日午前二時過神奈川滝ノ橋若菜屋近所より出火青木町榭村迄類焼大こくや遠州屋相模屋類焼いたし候昭知直ニ行(※『関口日記』第20巻p68)

『鶴殺疾刃庖刀』(条野採菊作 『やまと新聞』連載 明治20年)

或時の事でお藤が御前へ出まして、何が甘いとか不味とか申す話の末に、藤「御前は神奈川の亀の甲煎餅を召上つた事がござりますか。氏「まだ食べん。藤「私も子供の時頂いた事がござりましたが、とんだお美味いお煎餅でござりました、意地が穢い様でござりますが急に頂きたくなりました、羽根でも生えて居ると飛んで往つて参じますけれども。氏「羽根が生えて居らんでも何の造作もない事である、民弥民弥。と召しますから、民弥が御前へ出ますと、氏「おゝ民弥か、其方は神奈川で亀の甲煎餅を商ふ処を存じて居るか。民「心得居ります。氏「左様なら遠馬で直に求め参るやうに。とお手許から二歩金二つお取出しでござりました。(※復刻版『定本円朝全集』第5巻p456-457)

『横浜市民之声 前編』(横浜市民の声発行所 明治38年 附録p10)

横浜市民の声祝捷紀念名鑑

菓子商 青木町二丁目七十五番地 橋本治助

『日本紳士録 第十五版』(交詢社 明治43年)

橋本治助 菓子商 青木町二七五 (所得税) 一六九 (営業税) 八一 (※『明治大正昭和横浜人名録』p11)

『横浜成功名誉鑑』(横浜商況新報社 明治43年)

神奈川名物亀ノ甲煎餅本家 橋本治助君(神奈川青木町二七五)

東海道五十三駅名物の数甚だ多し、神奈川若菜屋の亀の甲煎餅は天明以前の道中記に載せられたるを見れば其由来や古きを知るべし、本元せんべいと亀甲に題せる招牌は太田南畝の筆、高丘殿御用とあるは今の子爵高丘和季氏の祖関東下向の砌用達を命ぜしによる、其他柳營の奥、西国大名の簾中、必らず用命を下せしものといふ、この由緒ある若菜屋は数度の回禄にて旧記を焼失せしが、家方の煎餅は今に変わることなく、原料の麦粉は昔より南多摩郡鶴川村より取り、砂糖のみは時勢につれて精製されたれば、旧時に比すれば光沢白くなりしに過ぎず、主人治助氏は父祖より家方を改めざるの訓誨を固守し、世の製菓者の競ふて新奇を衒ふ中に、依然として道中名物の旧観を存して今猶盛なるは、蓋し其の味の他に優れる処あればなり、(※覆刻版『横浜成功名誉鑑』p603-604)

4 大正期

『現代之横浜』（現代之横浜出版部 大正3年）

亀の子せんべい（神奈川滝ノ橋際）

往昔は神奈川の亀の子せんべいとて品質と価額とに於て有名なりしこと嘗て將軍の側妾態々使を神奈川に馳せて買ひ求められしと云ふ事ありしに徴しても知るを得べしと雖ども今日は其当時に比して甚だ振はざるが如し。（※復刻版『現代之横浜』p126）

重なる会社商店案内

菓子商 青木 橋本治助（同書 p133）

『横浜市商工案内 大正4年版』（横浜商工協会 大正4年 p436）

□煎餅

（業種別）製造（亀ノ甲煎餅）（営業税）一〇〇・二八（営業所）青木町二七五（商号）若菜屋（氏名又ハ名称）橋本治助

『横浜社会辞彙』（横浜通信社 大正7年）

橋本治助君

君は神奈川名物亀ノ甲煎餅を以て雷名ある若菜屋の主人なり天明以前より東海道中記に見える神奈川随一の名家にして斯業界の最大老舗なり君は能く家憲を厳守して其製法を改めず依然旧態を固守して敢て新奇を衒はず数百年來の招牌を維持するは何人も感嘆の外なく殊に原料を精選し名物にも甘い物あるは蓋し神奈川の亀ノ甲煎餅のみ（※『横浜近代史辞典』p58）

若菜屋

神奈川青木町二百七十五番地にあり天明年間の道中記に神奈川名物亀の甲煎餅の名を載せられたるを見れば以て如何に古き歴史を有するかを知るに足るべし店頭の招牌は蜀山人太田南畝の筆なりと云現代の主人は橋本治助君にて名物にも甘い物ありの靈腕を揮ひ居れり神奈川停車場前に支店を有す（※『横浜近代史辞典』p204）

『横浜市商工名鑑 大正6年末現在』（横浜市役所 大正7年 p78）

菓子類

（営業種目）亀甲煎餅製造販売（営業税）六一・九〇（営業所）青木町二七五（商号）若菜屋（氏名又ハ名称）橋本治助（創業年月）二百年前

『武相名家録』（武相名家録編纂局 大正9年初版 大正11年再版 p42）

工学士 橋本新助君

鉄道省工作局に入りて未だ幾許ならず、其名未だ高からずと雖も、学殖豊富にして技術群を抜ける君が将来や真に多望なりと謂はざるべからず。君は明治三十年七月十五日を以て横浜市青木町二七五番地に生まる。生家は菓子製造業を営む、天資俊敏にして機才あり、夙に神奈川県立第一横浜中学校を卒業するや、工業技術家となりて世に処せんことを欲し、第一高等学校を経て、東京帝国大学工学部に入り、大正十年遂に之れを卒業して工学士の称号を受く、同年四月官途に就き、鉄道省工作局に奉職し以て今日に至れり、君齢ひ漸く二十六歳前途の春秋頗る遼遠なり、今後の榮達蓋し期して俟つべき也。趣味として美術を愛好す。（神奈川県横浜市青木町二七

五番地)

『最近横浜市商工案内 大正10年版』(横浜市商工課 大正10年 p112)

◎菓子

亀甲煎餅製造小売 内地 青木町二七五 若菜屋 橋本治助

『日本紳士録 第二十九版』(交詢社 大正14年)

橋本新助 煎餅商、青木、二七五 (所得税)五六〇 (※『明治大正昭和横浜人名録』p7)

『横浜市商工案内 大正15年』(横浜市商工課 大正15年 p64)

菓子類

(営業種別) 菓子製造 (取引先) 横浜 (営業所) 青木町二七五 (商号) 若菜
(営業者又ハ代表者氏名) 橋本トク

『川柳江戸名物』(西原柳雨著 春陽堂 大正15年)

(三) 鶴屋米饅頭

鶴はまん亀はせんにて名が高し(?)といふ句は、饅頭と煎餅とを利かせて、鶴は千年亀は万年を反対にいつた趣向であるが、鶴の饅頭に対する亀の煎とは亀子煎餅を云つたものゝやうだが、併し亀子煎餅の本舗は何町何屋であるか明かでない、尤も鯉丈作の『箱根草』には神奈川の名物に此物ある趣きを記して居るが、神奈川だとすれば一方の鶴饅頭は、寧ろ川崎にした方が対照の具合がよいやうである。(※復刻版『川柳江戸名物』p3)

5 昭和期（戦前・戦中）

『今昔横浜案内 神奈川の巻』（栗原清一著 横浜郷土史研究会 昭和4年 p35）

瀧の町

同じ左側を少し行くと立派なショーウインドに大きな亀の甲が飾つてある家がある、若菜屋と云つて旧幕時代から神奈川名物となつて居る亀の甲せんべいの本家、今は押しも押されもせぬ横浜の名物、一袋買って味つた。

『神奈川県紳士録』（横浜市誌編纂所 昭和5年 p19）

橋本とく氏 横浜市神奈川区青木町二七五

高島山の丘陵を背にし横浜湾に臨み本覚寺畔浦島塚の辺り名物亀の甲煎餅あり若菜屋は其元祖本家にして橋本は其の姓なり亀甲に題する招牌は太田南畝の筆に係かる。祖宗以来当地草創とも云ふ可き旧家にて浦島太郎の伝説に因み亀甲煎餅を売出せしは今を去る二百余年の昔。中御門天皇の御宇。將軍吉宗の治世享保年間に属し東海道名物中の名物として古より声価東西に高く旅客の一度神奈川宿を過ぎれば此の名物を賞味せざるなく今の高丘子爵季氏の祖高丘脚の関東下降の砌り御用達を命ぜられしは実に当家の榮譽なり。將軍家大奥を始め諸大名諸名家の奥向より年毎に用命を受け来り今尚ほ東海道名物として若菜屋の名はその煎餅の淡泊なる珍味と共に聞えたり。治助氏は能く元祖よりの遺訓と家方を守り一子相伝の秘術により煎餅の製造に精進し所謂近代的の商策を排し依然として一抹の渋茶一盆の煎餅に道中名物の旧態と旧観を留むるに努めたり、之即ち名所旧蹟の年と共に名残をも留めず移り行く現代に独り若菜屋の亀の甲煎餅がその昔ながらの風味と遺風を偲ばしむる所ある所以なり、真に懐かしき限りと言ふべし。治助氏の妻とく子は即ち現主人にして治助氏以来の職人を督励して旧名を恥かしめず煎餅の美味なる包装の趣味豊かなる。能く時代の嗜好に応じて若菜屋の名声愈々繁昌す。橋本家の当主は橋本新助氏と謂ふ。帝国大学機械工学科卒業後鉄道省に入り現に同省技師にして高等官四等なり。

『横浜市史稿 風俗編』（横浜市役所 昭和7年 p158-159）

第四章名物第一節東海道の部 七、若菜屋の亀の甲煎餅（神奈川区青木町二百七十五番地橋本治助）

東海駅路の名物中、名立つたものゝ一つである。浦島寺（観福寿寺）の古事に則り、亀甲形に製した煎餅である。天明年間の道中記に、其名が見えて居るから、相当古い頃からの老舗であつて、今猶家業は連綿と続けて居る。「本元亀の甲せんべい」の大招牌は、太田南畝の飄逸な筆であつたが、大正の震災で焼失した。而して現在も猶使用して居る高丘殿御用と冠した箱張りとは、袋紙とは、殿様が関東下向の砌、御用達を命ぜられた由緒あるものである。されば大小名の御用命を初め、上り下りの旅人の家土産には、格好の名物として評判であつた。原料の麦粉は、往昔より南多摩郡鶴川村から産出のものを用ゐ、砂糖も家伝の調味に意を払い、父祖伝来の家方を改めず、当代製菓業者の間に在つて、超然として昔しながらの美味を見せて居る。（※復刻版『横浜市史稿』風俗編p158-159）

『横浜市史稿 産業編』（横浜市役所 昭和7年）

第二章第十節製菓業

古くから有名である蒸菓子店には、住田楼・港月堂・風月堂等があり、煎餅類に若菜屋の亀甲煎餅、亀楽の喜楽煎餅（風俗編第四章参照。）等がある。是等は皆自宅に製造工場を設けて居り、又一文菓子問屋として有名なる長者町九丁目附近には、其製造工場兼問屋が軒を並べてある。（※復刻版『横浜市史稿』産業編p659）

（工場名）若菜屋 （主要製品）煎餅 （所在地）神奈川区青木町二七五 （工業主）橋本治助 （創業年月）不詳（※復刻版『横浜市史稿』産業編p661）

『横浜市商工業内 昭和8年版』（横浜市勸業課 昭和8年 p63）

(14)煎餅

（営業品目）亀ノ甲せんべい （営業種目）製造 （営業所）神、青木通四二 （電話番号）2-五六九三 （商号又ハ屋号）若菜屋 （営業主又ハ代表者氏名）鈴木嘉助

『横浜百景』（小島十三郎、山本和久三共著 横浜貿易新報社出版部 昭和9年 p55）

神奈川駅の回顧

駅前の亀の子煎餅は名物にうまいものありと言ひたい位、浜ッ子の味覚へ呼びかけた。神奈川駅の廃止は之等の総てを惜し気もなく吹き飛ばして仕舞った。

『横浜市商工業内 昭和12年版』（横浜市産業課 昭和12年 p101）

(14)煎餅

（営業品目）亀甲煎餅 （営業種目）卸小売 （営業所）神、青木通四二 （電話番号）4-二六九三 （商号又ハ屋号）若菜屋 （営業主又ハ代表者氏名）鈴木嘉助

『神奈川区誌』（神奈川区役所 昭和12年 p141）

第七章産業 九、食料品 煎餅

若菜屋の亀甲煎餅は創立年代不明なるも、古くより製造販売し、其名声を博し、神奈川の名物として推挙し得べし。

『職業別電話名簿 昭和13年用』（日本商工通信社 昭和12年 p135）

煎餅及煎豆商（煎豆商）

神奈川4二六九三 若菜屋本店 鈴木嘉助 神奈川、青木通、四二

『横浜市電話番号簿 昭和17年10月1日現在』（横浜中央電話局 昭和17年）

若菜屋 鈴木嘉助…神奈川4-2693 神、青木通、四二 煎餅

『江戸時代商標集』（木村仙秀著 昭和19年）

相州神奈川 亀の甲煎餅

横浜市神奈川区青木通四二で店主を橋本治助といふ。「横浜市史稿」によれば、元神奈川宿本陣の筋向ひ家で、同地の古利浦島寺の故事に因んで亀甲型にしたのである。天明版の道中記にその名が出てゐるから、その起りもまた古い。本元亀の甲せんべいの大看板は、蜀山人の筆であつたが、大正の震災で焼失した。原料の麦粉は、昔から武州南多摩郡輪川村産のものを用ひ、父祖伝来の家法で調味するので、その製品は同業者間の群を抜いてゐる。商標に高丘殿御用とあるのは、公卿に同姓があるから、何れの時にか買上げられたからであらう。この若菜屋の外に、同地には常磐屋といふのがあつたが、後に伊勢屋と改め、それも震災後廃業した。滝亭鯉丈の「箱根草」二編の下に、暢気者の三人が此処にとまつて、一杯飲みながら 宮次『なにが愛ぢやア名物だらう 木賀蔵『名物なら先づ

亀の甲煎餅サ 宮『べらぼうめへ煎餅が酒の肴になるものかい 木賀『そんなら酒の肴になる名物は何だと聞けばいいに、ただ名物とばかり言ふから亀の子せんべいと言ったのだ、何と一言もあるめへ、とあるのも、此の宿の名物を代表してゐたからである。(※『木村仙秀集』第6巻 p7)

6 昭和期（戦後）

『話の大事典 第1巻』（日置昌一著 万里閣 昭和25年）

亀の甲せんべいの始

享保の頃（皇紀二三七六～二三九六、西暦一七一六～一七三六）神奈川宿に浦島太郎の伝説にちなむ旧蹟あるところから因縁深い亀を象どり、亀の甲煎餅と名づけて売り出したのが嚆矢である。袋ごとやると泣きやむげびたがき（天明）（※復刻版『話の大事典』第1巻 p333-334）

『お菓子の歴史』（守安正著 白水社 昭和27年 p305）

二 亀の子煎餅以後の歴史

ところが、元禄から約百二十年後の文化文政年度になると、急に煎餅の技術が向上した。それは「亀の子煎餅」の出現が刺戟を与えたのだった。中でも有名なのは東海道神奈川宿の若菜屋の「亀甲煎餅」であった。若菜屋はすでに享保の頃（一七二五年頃）開業していたが、文化年代になって初めてこの製品を発表した。この近所に有名な浦島太郎の伝説にちなむ旧跡がある所から亀甲型に焼いて、この名称をつけたのである。小麦粉と砂糖とを混和し、薄めて、亀甲型模様のついた鉄の皿籠に流し込み、炭火で両面を焼いたものである。まだ玉子を使用していなかったが、その風味は他の煎餅を遙かにしのいだ良品であったので、將軍家の大奥を始め諸大名の参勤交代の折の御用をこうむってすこぶる好評を博した。この若菜屋の薄めた種の型入焼が影響して、各煎餅製作者はこれを模倣し煎餅の製法はますます近代化して来た。江戸にも、この方法の焼き方が漸次増えて流行した。

『横浜・川崎電話番号簿 昭和28年10月』（神奈川電気通信部 昭和28年 p69）

菓子（センベイ）

亀の甲せんべい伊藤勝利

『神奈川菓業名鑑 昭和31年度版』（菓子新聞社 昭和31年 p20,23,68）

神奈川区

（営業種別）菓子小売（商号氏名）亀甲せんべい 金高亭市

（営業種別）菓子小売煙草（商号氏名）亀の子せんべい伊藤勝利

西区

（営業種別）瓦煎餅製造小売（商号氏名）原商店 原勇一郎

『西区明細地図 昭和31年度版』（経済地図社 昭和31年）

センベイ・カシ 不二家 原商店

『神奈川区明細地図 昭和32年度版』（経済地図社 昭和32年 p55）

せんべい 柳月堂

『御家安とその妹』（古今亭志ん生口演 昭和32年）

ちょうど、お春の方を相手に、氏勝が飲んでいると「あの〇御前」「うむ？」「貴方は、神奈川の亀の子煎餅というものを召上がったことがございますか？」「いや、そういうものは食べんが、それァなんだ？」「いや、私は子供の時分に、食べたことがあります、あァ美味いなーと思ひまして。さきほど、それをひょっと思い出したら、急にそのお煎餅が食べたくなりまして、江戸から神奈川まで行くのは大変だ、

もし自分に翅があれば、飛ンで行って買ってきたいと思います」「左様か。いやァ翅がなくても、飛ンで行って買ってまいる者があるから、すぐにお買わせろ…（下手へ）これ、田宮ッ」「ははァッ」「あァ、その方は、神奈川の亀の子煎餅というのを知っておるか？」「存じております」「これから急いで、買ってまいれッ」「はッ…」(※『五代目古今亭志ん生全集』第5巻 p70-71)

『明治二十二年頃の横浜名物』（平松紫香著 『郷土よこはま』7号 昭和33年 p20）

煎餅や 神奈川 若菜屋

『西区明細地図 昭和35年度版』（経済地図社 昭和35年 p9）

せんべい菓子 富士屋 原商店

『お菓子の歴史 増訂新版』（守安正著 白水社 昭和40年）

亀の甲せんべい

横浜市の名産。亀菜せんべいのモデルにされたのが神奈川宿の若菜屋の「亀の甲せんべい」である。この店は神奈川宿の本陣滝の橋の境に享保年間（一七二五年ころ）に創業された老舗であったが、現在は市区改正で電車道から中通りになっている。前主は東京で他の商売をはじめているが、譲られた当主の伊藤氏は現に熊野神社のかたわらで商売を続けている。若菜屋が文化年代（一八一〇年ころ）にはじめて小麦粉に卵砂糖を入れて薄めて、まん丸い亀甲型模様のついた鉄の皿籠に流しこみ、炭火で両面を焼いたせんべいを製作した。神奈川宿の近くに護国山観福寿寺があって、浦島大竜女や浦島太郎の墓など残っているところから亀甲型に焼いてそう名づけたのだろう。その風味は他のせんべいをはるかにしのいでいたので、將軍家の大奥をはじめ諸大名の参勤交代のときの御用をこころむってすこぶる好評を博した。このせんべいの価値は単に風味が抜群だったばかりでなく、せんべい製法の上の一つの革命をもたらした点にあった。現在は卵を二割入れて堅く焼き、含蓄を出すことを第一と心がけている。現在この系統をひいているものは下ノ関市の「亀の子せんべい」と「亀菜せんべい」とである。(※『食の風俗民俗名著集成』第11巻 p78-79)

『神奈川県の名菓を訪ねて』（千葉健三著 川崎新聞社 昭和42年 p101）

亀の甲せんべい 神奈川州崎神社隣 亀の甲せんべい

店主 伊藤勝利

小麦粉に砂糖を用いた「亀の子せんべい」の老舗で有名なのは、東海道神奈川宿本陣、滝の橋の若菜屋である。江戸は享保のころ開業し、文化（一八一〇年代）年間、はじめてこの製品を発表した。近所に浦島太郎の伝説の遺跡があるところから、亀甲型に焼いて「亀の甲せんべい」と名付けられた。將軍家大奥の高丘殿（現在の庶務課長の職と思われる）御用であったことが文献に残っている。せんべいの革命ともいべき亀の甲せんべいは、米粉のせんべいしか知らなかった文化文政のころの人々を驚かせたのは勿論である。將軍家や参勤交代の諸国大名に愛され、のぼりを立て、かごに納めて大奥や大名の国表へ運ばれた「亀の甲せんべいさま」。広重や北斎に画かれたように、当時の神奈川宿本陣は東海道の要所として繁盛したので、亀の甲せんべいが有名になったのもうなづけよう。風味は他のせんべいをはるかにしのいだ。伝統の製法は、卵を二分、花見砂糖（現在は白砂糖を使用）を十時間以上煮てアク抜きしたものだけで味を作り、一枚一枚手焼きする。亀のこう

らの印象をとり球形で、表裏に押し焼の絵柄一つなく、見たところ単純。歯あたりは堅いめながら香ばしく、淡白な味で風格がある。一枚五円と非常に安い。他に現代の客の趣向に合わせて、卵を使った亀甲絵柄入り、広重名所、北斎名所の各せんべい（各六円）が好評である。のれんを譲り受けた土地ッ子の伊藤勝利さん（七三才）が青木橋に近い州崎神社隣で「亀の甲せんべい」の商標と伝統の製法を守り続けている。

『神奈川のお餅』(田島武著 武蔵野文庫 昭和44年 p159-160)

蜀山人が書いた看板 亀の甲せんべい 横浜・宮前町／菓子 創業・享保年間

横浜駅から市電で、神奈川より二つ目の停留所が洲崎神社前。ここから神社までは、ほんの一、二分。その右隣りが神奈川名物として江戸時代から有名な亀の甲せんべいの店だ。創業は享保年間というから、いまからおよそ二百四十年も前のこと。天明年間（一七八一～一七八八）の道中記にも、その名が見えているから、とにかく古い。「本元亀の甲せんべい」の大招牌は、太田南畝（蜀山人）の飄逸な筆であったが、惜しくも大正十二年の関東大震災で焼失した。しかし現在もなお使用している「高丘殿御用」と冠した箱張りとは大名達が関東下向のおり、ご用達を命ぜられたという由緒あるものだ。小ぢんまりとした何の変哲もない菓子屋だが、名物の亀の甲せんべいを買いに、東京からやってくる客もある。現当主の伊藤勝利さんは、当年七十二歳とは見えぬ若さで、いかにもその道一筋に生きてきた人らしく一見頑固そうだが、亀の甲せんべいのように「固いがやわらかい」感じの人。亀の甲せんべいの由来は、有名な浦島太郎の伝説にちなむ浦島寺（観福寿寺）の古事から、亀の甲型に焼いてこの名称をつけたもの。小麦粉一貫目に砂糖一貫二百目と卵を混ぜ、これを薄めて亀甲型のついた鉄の皿（かたなべ）に流しこみ、炭火で両面を焼く。卵をいれないのが本来で、いまなお特別にそれを売っている。将軍が食べたそのままの味だ。将軍家の大奥をはじめ、諸大名の参勤交代のおりの大名の御用を蒙って、頗る好評を博したらしい。また、原料の麦粉は、むかしから南多摩郡鶴川村から産出のものをうい、砂糖も家伝の調味に意を払い、父祖伝来の家法をそのままに継いでいる。焼き方を覚えるのに十年はかかるという。職人のあとつぎがないのが悩みのたねらしい。いまいる職人さんも、六十歳以上が多い。なんとか伝統の味を残してもらいたいものだ。

『神奈川のお餅 13 横浜の巻』(田島武著 『神奈川新聞』昭和45年11月5日)

創業は享保年間 浦島伝説にあやかる 亀の甲せんべい

横浜駅から京浜急行で、東京寄り一つ目が神奈川駅。降りて左にはいった通りが宮前町。ここをほんの一、二分、左側にあるのが神奈川名物として、江戸時代から有名な亀の甲せんべいだ。屋号を若菜屋という。創業は享保年間というから、いまからおよそ二百四十年も前のこと。天明年間（一七八一～一七八八）の道中記にも、その名が見えているから、とにかく古い。「本元亀の甲せんべい」の大看板は、太田南畝（蜀山人）の飄（ひょう）逸な筆であったが、惜しくも大正十二年の関東大震災で焼失した。しかし、現在もなお使用している「高丘殿御用」と冠した箱張りとは大名たちが関東下向のおり、ご用達を命ぜられたという由緒あるもの。当時から、神奈川宿で亀の甲せんべいは、そのレッテルに描かれたさきの蜀山人の画とともに東海道を上り下りする人たちに有名だったという。小ぢんまりとした何の変

哲もない菓子屋だが、名物の亀の甲せんべいを買いに、東京からやってくる客もある。現当主の伊藤勝利さんは、当年七十四歳とは思えぬ若さで、いかにもその道一筋に生きてきた人らしく一見がん固そうだが、亀の甲せんべいのように「固いがやわらかい」感じの人。勝利さんは、あと二年先に金婚式をあげるといふが、これも「亀」にあやかって、まことにめでたいことだ。ついでに書くと、祖父の源義さんも大正元年に金婚式をあげ、その記事が横浜貿易新聞にのったというし、先代の源太郎さんも昭和五年に同じく金婚式組というから、伊藤家は三代も続いた長寿の血統である。亀の甲せんべいの由来は、この店から子安寄り左側にある、おとぎ話で有名な「浦島太郎」ゆかりの浦島寺(観福寿寺)の古事から、亀の甲型に焼いてこの名称をつけたもの。小麦粉と砂糖と、鶏卵とを混和しうすめて亀甲型のついた鉄のかんなべに流し込み、炭火で両面を焼く。その型は平たい丸型で、亀と同じく原型だけに大いに宣伝価値があった。將軍家の大奥をはじめ、諸大名の参勤交代のおりの大名の御用をこらむって、すこぶる好評を博したらしい。この若菜屋の薄めた亀の型入れ焼きが影響して、各せんべい屋はこれを模倣し、せんべいの製作はますます近代化したという。原料の麦粉は、むかしから南多摩郡鶴川村(現在町田市内)から産出のものを用い、砂糖も家伝の調味に意を払い、父祖伝来の家法をそのままに継いでいる。焼き方を覚えるのに十年はかかるという。いま反町で亀の甲せんべいをつくっているが、当今のオートメーション大量生産時代というのに、一枚一枚手焼きにして、亀の甲せんべいの味を出すのに苦心しているというが、なんとか伝統の味を残してもらいたいものだ。(商人史研究家・鎌倉在住)(※『神奈川のれん物語』p35-36)

『かながわ味どころ100店』(坂田正幸、小奈晴夫著 昭和書院 昭和47年 p74-75)

將軍様「御用」のせんべい 亀の甲せんべい<菓子>

このあたりは「神奈川宿」として東海道五十三次の一つになっていた場所である。その頃からこれは「神奈川の亀の甲せんべい」として、名代の一つになっていた。徳川八代將軍吉宗の頃(一七一六～一七四四)、琉球産の黒砂糖を使用して始められ、その後オランダ産の砂糖を用いたこともあるというが、砂糖が貴重品であった時代のこと、当時はそれだけでも名物の値打ち充分であったことであろう。薩摩の島津公などはファンの一で、江戸詰めの帰りには必ず買い上げ、神奈川港から国元まで二ヶ月の舟便で送らせた。また「御用」の旗を立てたカゴで、將軍に納めたこともあるという家門のホマレ高いせんべいである。シケル(湿っける)ことが無く、あっさりしたとけるような舌ざわりと味が愛好されて、長い間ののれんを保たせた。主原料の白砂糖を幾時間も煮つめて、これに小麦粉をまぶしつつ、丹念に練りあげて、手焼きをする。万事オートメ化の現代の中で、見ていてはがゆいような、恐ろしく手間のかかる工程だが、この手作りにこそ、一枚一枚に作る人の秘伝が込められ、いつまでも作りたての味が保てるという、このせんべいを作り出したのであろう。六十年の生涯をこの名代せんべい作りに打ち込んだと云う名人気質の職長さんが、弟子達を相手に念入りに焼いているが、この中から、職長のあとに続くものを早くつくらねば、と当主の伊藤さんは頭を痛めている。現在の青木橋からすぐ先の藤崎神社の角にあるこの店は、以前は権現山の麓、滝の橋にあった。横浜が幕末から明治にかけて、土地を拓げるため、海に向かって埋立てが盛んに行われた頃、店をここに移したのであろうか。

メニュー 亀の甲せんべい一枚八円/名所入りせんべい一枚八円/有平巻一枚十円

／みそせんべい一袋五十円／しそせんべい一袋五十円／巻入り六百円・九百円・千
百円

『横浜市商店街要覧 1980年版』(横浜市商店街総連合会 昭和55年 p91)

宮前商栄会

亀の甲せんべい 菓子・タバコ 伊藤勝利

『神奈川区歴史あらかると』(神奈川区地域問題研究会 昭和59年 p35)

亀の甲せんべい

亀の甲せんべいは、本覚寺の黒薬、活鯛とともに神奈川宿の名物で、浦島太郎の伝説にちなみ亀の甲の形をした、しけることのないあっさりした味のせんべいであった。江戸時代からのしにせであった若菜屋のものは、当時貴重品であった砂糖を豊富に使っていたせいか、たいそうな人気で、大名、旅人が列をなして買いにきていたという。特に薩摩の島津公は国元への土産として買上げて、神奈川の港から舟便で送らせたほか、幕府にも献納した。初期は黒砂糖、後になると白砂糖を煮つめ、南多摩郡鶴川村産出の麦粉をまぶし、練り上げて手焼きにするという、手間のかかる工程を経て桐箱に入れられた。若菜屋は、滝の橋の近くにあったが、今はなくなった。しかし今も、青木町などに亀の甲せんべいを売っている店があるので一度食べてみてはいかが。江戸時代の味がするかもしれません。

『かながわ区物語海・緑・街・人』(神奈川区役所区政部区政推進課 昭和63年)

いまま残る神奈川の老舗

通りの向かい、洲崎神社寄りにあるのが亀の甲せんべい本舗。亀の甲せんべいといえば神奈川名物のひとつで、関東下回り(各地を見物すること)の折、大名たちが御用達を命じたという由緒あるお菓子。由来は、おとぎ話で有名な浦島太郎ゆかりの浦島寺(観福寿寺、いまはなく慶運寺が引き継いだ)の故事から、亀の甲型に焼いてつけられた名前といわれている。創業は享保年間(1716年~1735年)というから、約260年も前のこと。天明年間(1781年~1788年)の道中記に屋号の若菜屋の名前があるという。しかし、経営者もかなり変わり一時期は途絶えたこともある。それを復活したのが、現在の当主・伊藤泉さんの先代の時。復活までの経緯を、こう話す。「明治から戦前までは、いまの幸ヶ谷小学校の下で、鈴木さんという方がやっていたんです。戦時中、砂糖が配給制になり、できなくなつてからそれっきり。神奈川工業高校に通う途中で、職人が細々とやっていた亀の甲せんべいの看板を見つけ、親父がお菓子屋をやっていたし、復活できないものかと思ったんです。たまたま、鈴木さんの娘さんと小学校でいっしょだったことから、話がトントン拍子に進んで、ウチが受け継ぐことになったんです」(p51-52)

さらに地価高騰が…

亀の甲せんべい本舗の伊藤さんは、「この辺は店がびっしり並んでいたのに、いまでは全部売れてしまっている。まだ店をやっている人もいるけど、売却済み。寿司屋さんを除けば、病院と公園くらいしか残らないんじゃないですか。不動産屋がくる。この辺、坪ウン百万という噂です。ウチだって、高校の教師を退職し、年金があるからやっていける商売。それも、いつまで続くか…。皆、この辺の商売の人はフウフウいってますよ」と、こぼす。(p53-54)

7 平成期

「うた人抄 第8部童謡編(2)浦島太郎 “元祖”に恥じぬ亀の甲せんべい 変わらぬ味に執念」(『読売新聞』平成7年11月8日)

「もう年が年だから辞めたいんだけど」 “元祖、亀の甲せんべいを受け継ぐ横浜市神奈川区青木町の和菓子店「うらしま」店主、和田一郎さん(六三)は、八十歳を過ぎた老職人のひと言に言葉を失った。焦りに焦った。亀の甲せんべいは、反り返った形が亀の甲にそっくりで、口当たりが軟らかいかわらせんべい的一种だ。江戸時代の享保二年(一七一七)、現在の神奈川区にあった「若菜屋」が、横浜に残る浦島太郎伝説にちなんで売り出した。東海道を行き交う人々や、参勤交代の諸国大名のお付きらが列を成して買い求めたとされる。神奈川銘菓の一つだ。和田さんも子供時代からこの味に親しんだ。若菜屋は戦後間もなく廃業。別の店が亀の甲せんべいの商標と職人を引き継いだ。さらに九〇年、和田さんがその権利を継承した。若菜屋出身の老職人の引退宣言は権利を継いだ翌年、九一年のことだった。「伝統の味が消えてしまう。続けてもらえないか」一。和田さんは泣きつくように懇願したが、老職人に翻意の気配はない。それならと、亀の甲せんべいの焼き方を教えて欲しいと頼み込んだ。「さじの使い方、鑄型の返し方一。まともに売れる商品は五年間は修行しないと出来ないよ」。老職人はけたけたと笑うばかりだった。店を運営しながらの修行は無理だった。伝統の灯を消さないために職人を探さしかなかった。亀の甲形のせんべいは市内でも多くの店が扱っている。しかし元祖の名に恥じない風味となると、だれでもという訳にはいかない。電話帳で繰ってかわらせんべいの店に片っ端から電話をかけ、店に足を運び味を確かめた。「これは」とひざを打ったのが横浜市磯子区岡村の菓子店「紅梅堂」のせんべいだった。市菓子小売商組合連合会長も務める社長の池田啓一さん(七七)は、十二歳で同市保土ヶ谷区にあった菓子屋で修行を始め、亀の甲せんべい作りの道に入った。厳しい親方の手作業を盗み見しながら覚えた。新潟出身の親方は元パン職人。横浜市内でせんべい作りを覚えたと言われたが、若菜屋の職人だったかどうかは分からない。「まさに若菜屋の味。歯触りまでそっくりそのまま」と、和田さんは池田さんのせんべいにほれ込んでいる。「うらしま」には今、池田さんの亀の甲せんべいが元祖として並んでいる。卵、小麦粉、砂糖といったシンプルな材料の組み合わせだが、口の中に広がるまるやかで上品な甘さは、何回食べても飽きない。「子供のころから大好きだった亀の甲せんべいを自分が売ることになるとは思わなかった。この味だけは未来に残したい財産」と和田さんは顔をほころばせる。横浜の浦島伝説は、丹後の国で浜辺にいた亀を助けた浦島太郎が竜宮城に行った話の後日談だ。玉手箱を開けて白髪のお爺となった太郎が、父の墓があると聞いた武蔵国霞ヶ浦(現・神奈川区)に来て、乙姫から授かった観世音像を祭るため、小さなほこらを建てたという言い伝えが残っている。その観世音像が同区の慶運寺に残っている。「変わらぬおいしさを後世に伝えるのが、縁あって元祖を受け継いだ者の使命だ」と和田さんは考える。池田さんも、「生きている間は作り続けたい」と意気込む。「竜宮城で何百年もの時を過ごした太郎がひょっこり出てきても、『ああ、この味だけは変わらない』と、言ってもらえるようにしたいね」。亀の甲せんべいにかける二人の思いは変わら

ない。

『近世武相名物探訪』（品川文彦著 『郷土神奈川』35号 平成9年 p42-43）

最後に、神奈川宿の名物の代表格であった亀の甲煎餅を訪ねた。京浜急行神奈川駅近く、洲崎神社の脇にあるはずであったが、すでにそこに店はなかった。だがその近くに亀の甲煎餅の貼紙を発見。話を伺うと、あったはずの店がたたまれる際に、亀の甲煎餅の製造方法を伝えてもらったとのこと。やはり地元にとっても、江戸以来の名物をそう簡単に失うわけにはいかない、という心意気であったのか。亀の甲の形が何とも誇らしげに見えてくる。

『神奈川の東海道 上巻』（神奈川東海道ルネッサンス推進協議会 平成11年 p149）

第二節景勝の地・神奈川の名所と名物 亀甲煎餅と黒藁

次に亀甲煎餅は、「亀の甲せんべい」「亀ノ甲煎餅」とも称されており、その名のとおり亀の甲羅のかたちを模したもので、おそらくは先述した浦島伝説との関連で製作されたものと思われる。あるいは「鶴は千年、亀は万年」と俗にいわれるように亀は長寿のシンボルともいうことができるので、縁起物として売り出された可能性も考えられる。『金川砂子』には「元祖 青木町若菜屋」とあり、最初に青木町の若菜屋で販売されたことが判明する。『細見神奈川絵図』には、神奈川町から滝の橋を渡った山側に「亀甲せんべい」という記述が見られるが、おそらくこれが若菜屋の場所を示しているものと考えられる。亀甲煎餅は、初代広重によって描かれた『東海道遊歴双六』など東海道五十三次を題材とした道中双六や、光斎が明治五年（一八七二）に描いた『書画五拾三駅武蔵神奈川横浜眺望』などといった浮世絵に描かれるように、神奈川宿の名物として評判が高かったようで、そのため亀甲煎餅をあつかう商家は増加したようである。現在確認できるだけでも、滝の橋の若菜屋以外にも、神奈川本宿の和泉屋や恵比寿屋、台町の田中福寿、荒宿の相模屋といった宿内各所で販売されていた。また、保土ヶ谷宿の仲の橋の吉川屋などでも販売されたことが確認できる。（執筆：齊藤司）

第3部・資料編Ⅱ

『関口日記』にみる幕末・明治期の煎餅事情



関口日記調査表

年	月日	閏月	項目	金額/数	内容	vol.-pp.
寛政2	11月3日		煎餅	32文	江戸遣ひ覚(中略)一、三十式文 本丁みやげ煎餅袋三十式文	別1-158
寛政4	9月23日		煎餅		一、丸屋幸七煎餅持参	別1-227
寛政5	1月18日		せんへい	32文	一、三十式文 せんへい	別2-004
寛政9	7月27日		せんべい	24文	一、二十四文 せんべい	別2-167
寛政10	3月14日		せんべい	50文	一、五拾文 せんべい	別2-196
寛政11	1月10日		煎餅		一、百文 煎餅菓子共	別2-247
寛政12	4月27日	閏月	せんへい	/2袋	留守見廻到来(中略)一、せんへい老袋(今出や)一、同(権兵)	別3-052
寛政13	7月9日		せんべい	48文	一、四十八文 せんべい	別3-100
享和2	3月29日		せんべい	64文	一、六拾四文 せんべい	別3-129
享和2	4月5日		せんべい	24文	一、二十四文 せんべい きりや病氣見まい	別3-129
享和3	5月29日		せんへい	50文	一、五十文 せんへい 本長へ遣ス	別3-172
享和3	11月5日		せんへい	50文	一、五拾文 せんへい	別3-190
享和4	10月2日		せんべい	32文	一、三十式文 せんべい	別3-219
享和4	12月9日		せんへい	24文	一、二十四文 せんへい	別3-227
文化3	2月15日		煎餅	50文	一、五拾文 煎餅代	1-004
文化3	9月5日		煎餅	50文	一、五拾文 煎餅	1-021
文化3	9月12日		せんへい		一、貳百五拾文 茶壺斤せんへい	1-022
文化4	5月15日		せんへい	16文	一、十六文 せんへい	1-067
文化5	2月15日		煎餅	32文	一、三十式文 煎餅	1-120
文化5	4月19日		せんべい	24文	一、二十四文 せんべい	1-127
文化5	6月3日		煎餅	24文	一、二十四文 煎餅代	1-133
文化6	1月29日		煎餅		一、貳百五拾文 茶半斤煎餅代	1-163
文化6	2月15日		せんへい	48文	一、四拾八文 せんへい	1-165
文化6	10月1日		煎餅	24文	一、二十四文 煎餅代	1-203
文化7	2月15日		せんへい		一、百文 三味線系せんへい代 兵右エ門出府ニ付頼	1-228
文化7	2月24日		煎餅	24文	一、二十四文 煎餅代	1-229
文化7	2月26日		煎餅	50文	一、五拾文 煎餅代	1-229
文化7	5月12日		煎餅	50文	一、五拾文 煎餅代	1-239
文化7	6月7日		煎餅	24文	一、二十四文 煎餅代	1-242
文化7	11月21日		煎餅		一、百文 煎餅求、新助酒代	1-263
文化7	12月10日		煎餅	50文	一、百文 饅頭五拾文煎餅同	1-265
文化7	12月22日		煎餅	50文	一、五拾文 煎餅	1-267
文化8	2月26日		煎餅	50文	一、五拾文 煎餅代 右は去ル十八日出府致二十二日帰り其節相	1-275
文化8	4月5日		煎餅		今日南新五右エ門内方年礼延ニ来ル煎餅持参	2-014
文化8	9月8日		煎餅	50文	一、五拾文 煎餅代	2-041

関口日記調査表

年	月日	閏月	項目	金額/数	内容	vol.-pp.
文化8	9月29日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	2-046
文化8	11月6日		煎餅		一、貳百文 煎餅土産代	2-052
文化9	4月9日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代 先日兵右エ門頼求候分払	2-094
文化9	7月28日		煎餅	100文	今日享次郎同道ニ而江戸三河町小笠原相模守様御奥ニ而お千恵方迄罷越申候 梨子三拾、玉子二十七、索麵一箱、煎餅百文 右之通持参致申候	2-119
文化10	9月21日		煎餅		一、貳人 江戸行、柿栗持参 外ニ買物仁粉油きぬ糸煎餅孫七相求候ニ付百七十貳文遣	2-309
文化10	10月23日		煎餅	200文	今日出府御役所江米症悪敷御訴書上ル (中略) 一、貳百文 権藏殿お千恵方煎餅代	2-242
文化10	11月3日	閏月	煎餅	100文	今晚孫七出府おち恵迎ニ参ル(中略) 一、百文 煎餅代	2-247
文化10	12月10日		煎餅	100文	孫七江戸行金杉近江屋へ糯白米四斗持参致ス(中略) 一、百文 煎餅代	2-253
文化11	2月19日		煎餅	/1袋	岸仁左エ門孫娘おもと去ル十六日登山 入三百文 右肴代煎餅老袋添	2-318
文化11	2月22日		煎餅	56文	一、五拾六文 煎餅	2-319
文化11	4月5日		煎餅	100文	一、百文 煎餅	2-326
文化11	6月5日		せんへい		孫次郎江戸行 (中略) 一、五百文 すき返し、きぬ糸、せんへい	2-338
文化11	6月17日		煎餅	/1袋	お滋七夜ニ付内祝致シ(中略) 煎餅老袋 五郎右エ門	2-341
文化12	2月11日		せんへい		一、貳百五拾文 線香代せんへい稽古本きぬ糸	2-383
文化13	7月25日		煎餅	/1袋	坂口屋より享二見舞ニたなこ七つ至来(中略) 煎餅一袋きし九右エ門、(中略)、煎餅きし吉右エ門、(中略)、煎餅一袋岸孫右エ門	3-048
文化13	8月3日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代 一、百文 漉返百枚 右二品は先日甚吉頼江戸ニ而求	3-049
文化13	11月6日		煎餅	100文	今日帰村いたし候 (中略) 一、百文 煎餅代	3-074
文化14	3月23日		煎餅	100文	江戸松五郎お千恵今日昼頃より相帰り候(中略) 一、百文 煎餅代	3-145
文化14	4月28日		せんへい		留守見まい (中略) せんへい(向甚五郎)	3-175
文化14	5月23日		煎餅	100文	甚吉江戸行築地より両国迄参り候(中略) 一、七百文 甚吉小遣并買物代共 此訳 貳百文茶壺斤、百文煎餅代、五拾文目薬代	3-157
文政2	4月13日		煎餅	100文	両国松五郎夫婦并お滋共昨夜神奈川泊ニ而帰ル直ニ江戸帰り(中略) 一、百文 煎餅代	3-379
文政3	2月5日		煎餅		飯倉町家主惣右エ門昨日戸塚迄罷越今日帰りニ立寄候酒食共出ス煎餅持参	3-509
文政3	2月9日		煎餅	/1袋	入三百文 今出屋お衆登山肴代 外ニ煎餅老袋朋輩江遣シ呉候様持参致ス	3-510

年	月日	閏月	項目	金額/数	内容	vol.-pp.
文政3	3月20日		煎餅	100文	本宮伝七おきん出府ニ而今日迎ニ参リ候間築地江享ニ荷物取寄ニ頼(中略) 一、百文 煎餅代	3-520
文政4	3月4日		煎餅	100文	一、百文 煎餅 一、百文 落雁代 右之通長五郎江頼江戸ニ而	4-007
文政4	3月17日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代 一、百文 落雁代 右武品兵右エ門江頼江戸ニ而求申候	4-012
文政4	4月9日		煎餅	100文	本宮伝七出府序ニ築地可吉方江夏物相届申候 (中略) 一、百文 煎餅代	4-017
文政4	4月29日		煎餅	100文	本宮伝七出府ニ而品川へ菓種并市兵衛丹老斤取 一、百文 煎餅代 江戸ニ而求	4-021
文政4	10月22日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代 庄之助江頼	4-053
文政4	11月28日		煎餅	200文	一、貳百文 煎餅代	4-059
文政5	3月28日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代 南長八帳消願婦リニ頼	4-126
文政5	3月29日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代 南孫次郎江頼	4-127
文政5	4月4日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	4-128
文政5	4月12日		煎餅	100文	一、百文 可吉朋輩へ煎餅代	4-130
文政7	3月19日		煎餅	100文	一、五百文 本宮伝七江戸行小遣 一、百文 煎餅代	4-391
文政7	5月29日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代 右はすみや重右エ門へ相頼江戸ニ而求申候	4-419
文政11	2月19日		煎餅		神奈川秩父屋武助殿煎餅持参	5-092
文政11	2月26日		煎餅	/1袋	北町熊次郎罷越候 菱餅二枚煎餅壹袋なめ物一食籠到来	5-094
文政11	7月23日		煎餅	/1袋	今夕つるミ権蔵来ル享ニニ症相煩候ニ付見廻煎餅一袋持参	5-178
文政12	2月21日		煎餅	/1袋	道塚村お沢との年礼来ル海苔七枚煎餅一袋持参	5-225
文政12	3月29日		煎餅	/1袋	煎餅一袋、手拭壹筋、鱈節貳本土産ニ参ル	5-294
文政12	7月3日		煎餅	/82枚(?)	和佐宗賢老倅順多郎連留守見舞ニ来ル葛壹重煎餅壹重数八拾貳持参	5-316
文政12	7月27日		煎餅	200文	一、貳百文 煎餅代 昨日土産ニ遣ひ候	5-325
文政13	2月20日		煎餅		交菓子煎餅ニ而百文分 安左エ門方より仏前江	6-002
文政13	4月21日		亀甲煎餅	200文	去十五日朝艸吉野屋庄次郎夫婦ニ而罷越宅を弟兼次郎と申争家出致候(中略)神奈川秩父屋へ止宿致候由ニ而立寄 亀甲煎餅貳百文分持参致ス	6-022
天保2	8月28日		煎餅		一、六百文 煎餅落雁 享ニ婦村二付 土産之交ニ差入遣ひ候	6-215
天保3	5月7日		煎餅	100文	今夜すさみやおてふ来ル直ニ帰り煎餅百文持参	6-360
天保3	5月14日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	6-361
天保3	9月3日		亀甲せんへい	50文	一、五拾文 亀甲せんへい	6-389
天保3	10月23日		煎餅	50文	一、五拾文 煎餅落雁ませおみね病気見廻	6-399
天保3	10月23日		せんへい	24文	一、二十四文 理吉江遣ス せんへい	6-399

関口日記調査表

年	月日	閏月	項目	金額/数	内容	vol.-pp.
天保3	11月18日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代 利八江頼嶋屋ニ而求	6-406
天保3	11月19日	閏月	亀甲せんへい	100文	一、百文 亀甲せんへい 利八頼	6-413
天保3	11月20日	閏月	煎餅		お解義去ル十六日里へ行 今日昼前ニ下女同道帰ル まくろ味噌漬、塩松茸、煎餅持参致ス	6-413
天保3	11月30日	閏月	煎餅	100文	亀五郎ふち屋用ニ而出府致候間買物相頼 (中略) 一、百文 煎	6-416
天保3	12月22日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	6-423
天保4	2月16日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代 志摩屋ニ而求利八	6-439
天保4	3月6日		亀甲煎餅	164文	一、百六拾四文 亀甲煎餅 内百文門次郎江遣ス、六拾四文お照との江遣ス	7-003
天保4	3月23日		亀甲煎餅	100文	一、百文 亀甲煎餅 若菜屋ニ而求	7-010
天保4	4月22日		煎餅	/1袋	きの国屋隠居江戸より帰土産煎餅老袋梅二江	7-019
天保4	4月29日		亀甲煎餅	100文	昨夜ツるミ小林玄英眼病ニ而先日療治ニ出府いたし候趣 右見廻ニお家行亀甲煎餅百文分持参致ス	7-021
天保4	6月23日		亀ノ甲煎餅	100文	一、百文 亀ノ甲煎餅求	7-034
天保4	9月10日		木の葉煎餅	100文	一、百文 木の葉煎餅代	7-054
天保4	11月1日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代 一、五拾文 黒絹継糸 右二口勝次郎ふち屋用ニ而罷越候ニ付相頼申候	7-068
天保4	12月9日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	7-079
天保4	12月13日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代 一、三百文 茶壺斤 是は亀五郎ふち屋用ニ而出府ニ而相頼申候	7-081
天保5	6月21日		亀甲煎餅	/1袋	紀伊国屋三郎兵衛娘てる同道ニ而大師参詣ニ来り(中略)亀甲煎餅一袋持参	7-205
天保5	9月3日		亀ノ甲煎餅	50文	相模や長兵衛来ル亀ノ甲煎餅五拾文土産	7-222
天保5	9月12日		木の葉煎餅		六郎右エ門江戸より帰候由茶一袋木の葉煎餅土産	7-225
天保5	9月22日		木の葉せんへい	/1折	西屋鼻緒や小兵衛殿来ル木の葉せんへい一折土産	7-227
天保5	9月28日		亀ノ甲煎餅		すさみや老婆来ル亀ノ甲煎餅白砂糖老蓋物持参	7-228
天保5	10月21日		煎餅	100文	一、百文 煎餅 かな川ニ而求	7-232
天保5	10月29日		せんべい	100文	一、百文 せんべい	7-233
天保5	11月5日		せんへい	100文	一、百文 せんへい	7-235
天保5	11月27日		せんへい		一、貳百文 せんへいまんちう代 子安源右衛門頼	7-238
天保6	2月26日		亀ノ甲せんへい	100文	次郎右衛門内方おみのどの年礼ニ来亀ノ甲せんへい百文分持参	7-254
天保6	3月22日		亀ノ甲煎餅	400文	一、四百文 亀ノ甲煎餅 おとく江戸行土産ニ相求	7-322
天保6	4月10日		亀ノ甲煎餅	100文	一、百文 亀ノ甲煎餅	7-325
天保6	4月20日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	7-328
天保6	4月28日		堅巻煎餅	100文	一、百文 堅巻煎餅	7-329

年	月日	閏月	項目	金額/数	内容	vol.-pp.
天保6	5月7日		せんへい		一、四百文 与次右衛門江戸行買物頼 内 百文せんへい、百五拾文油類、百五文元ゆい 外百文せんへい別段払	7-330
天保6	5月18日		せんへい	100文	一、百文 せんへい かな川ニ而求	7-332
天保6	5月24日		煎餅	100文	一、百文 煎餅 かな川ニ而求	7-334
天保6	5月30日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	7-335
天保6	7月12日		亀ノ甲煎餅	/1袋	昨夕神奈川中村屋七兵衛女房来ル(中略) 亀ノ甲煎餅壹袋土産ニ	7-343
天保6	7月23日		あるへい巻煎餅	/1箱	一、あるへい巻煎餅壹箱 中村ヤ七兵衛	7-345
天保6	7月2日	閏月	せんへい	100文	一、百文 せんへい 神奈川ニ而求	7-349
天保6	7月6日	閏月	せんへい	200文	一、貳百文 せんへい代、一、四百五拾文 通盆拾枚 右貳品温泉土産ニ用	7-350
天保6	7月8日	閏月	せんへい	100文	一、百文 せんへい求	7-351
天保6	7月14日	閏月	せんへい	100文	一、百文 せんへい 神奈川ニ而求	7-352
天保6	7月21日	閏月	煎餅	100文	一、百文 煎餅求	7-354
天保6	7月28日	閏月	煎餅	100文	一、百文 昨日求煎餅代	7-355
天保6	8月13日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	7-357
天保6	8月22日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	7-359
天保6	8月26日		煎餅		村田屋勘左エ門出府(中略) 一、貳百文 煎餅落雁貳品相求 勘左衛門相頼候	7-359
天保6	8月30日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	7-360
天保6	9月13日		煎餅		一、貳百文 煎餅ひん付代	7-362
天保6	9月22日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	7-363
天保6	9月24日		煎餅	100文	一、百文 煎餅江戸ニ而求 喜太郎相頼	7-363
天保6	9月26日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代 神奈川ニ而求	7-364
天保6	10月3日		亀ノ甲煎餅		青木町老母来ル酒食出ス お千恵江逢ニ来亀ノ甲煎餅持参	7-365
天保6	10月12日		亀ノ甲煎餅	100文	一、百文 亀ノ甲煎餅 かな川ニ而求	7-368
天保6	10月14日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	7-368
天保6	10月18日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	7-368
天保6	11月14日		亀甲煎餅	100文	一、百文 亀甲煎餅	7-372
天保6	11月21日		煎餅		一、四百文 与次右エ門江頼 元ゆい、ひん付、すき油、煎餅共	7-373
天保6	11月24日		亀甲煎餅	100文	一、百文 亀甲煎餅	7-373
天保6	12月18日		亀甲煎餅	100文	一、百文 亀甲煎餅	7-377
天保6	12月20日		からから煎餅	100文	一、百文 からから煎餅代	7-377
天保6	12月23日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代 江戸ニ而甚吉求	7-378
天保7	1月5日		煎餅	100文	一、百文 利八相頼求煎餅代	7-382
天保7	1月19日		からから煎餅	200文	一、貳百文 からから煎餅代 源右エ門江頼	7-384

関口日記調査表

年	月日	閏月	項目	金額/数	内容	vol.-pp.
天保7	2月7日		亀ノ甲煎餅		平七娘しま奉公宿下り亀ノ甲煎餅持参	8-003
天保7	4月8日		煎餅	200文	一、貳百文 饅頭代 近所江善光寺土産之交ニ相求候 (中略) 一、貳百文 煎餅代 右同断交ニ致ス	8-018
天保7	4月11日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	8-018
天保7	5月27日		亀甲煎餅	100文	一、百文 亀甲煎餅	8-025
天保7	6月4日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	8-027
天保7	6月10日		煎餅		亀五郎江戸行(中略) 一、壹貫文 小遣買物ニ持参致ス 内四百五拾文 ひん付元結煎餅すき油	8-028
天保7	7月29日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	8-039
天保7	8月5日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	8-041
天保7	8月15日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	8-044
天保7	8月21日		煎餅	/3袋	お解義十二日青木町行今日相帰リ候 土産煎餅三袋水飴壹壺	8-045
天保7	9月12日		煎餅		亀五郎江戸行(中略) 一、四百文 刻こんぶ、ひじき、煎餅三品	8-049
天保7	9月18日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代 神奈川ニ而求	8-050
天保7	9月21日		煎餅	100文	大工忠五郎江戸行ニ付買物相頼候 一、百文 煎餅代	8-051
天保7	10月6日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代 喜太郎江払	8-053
天保7	10月11日		煎餅	100文	一、百文 きぬ糸代 一、百文 煎餅代 右二品与次右エ門出府ニ	8-055
天保7	10月22日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	8-057
天保7	11月6日		亀甲煎餅	100文	一、百文 亀甲煎餅 大黒屋子供江	8-060
天保7	11月21日		煎餅	200文	一、貳百文 煎餅代	8-062
天保7	11月26日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	8-062
天保7	12月2日		煎餅	200文	一、貳百文 煎餅代	8-063
天保7	12月22日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	8-121
天保7	12月25日		煎餅	100文	亀五郎今日出府(中略) 一、百文 煎餅代	8-122
天保8	2月6日		亀甲煎餅	100文	一、百文 亀甲煎餅	8-130
天保8	3月3日		煎餅	100文	一、百文 煎餅かな川ニ而相求申候	8-134
天保8	3月3日		煎餅		一、七百文 雪踏壹足、元ゆい、ひん付、煎餅代 右は与次右エ門出府ニ而相求申候	8-134
天保8	4月22日		煎餅		本宮七郎右衛門預り子仙次郎実母本所住居之由立寄手拭壹筋煎餅まんちう土産	8-141
天保8	5月12日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	8-145
天保8	6月26日		煎餅	100文	一、百文 梅二煎餅	8-152
天保8	6月26日		煎餅		すさミ屋老母来ル藤右エ門留守ニ而逢不申煎餅砂糖持参	8-152
天保8	7月2日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代 利八江頼	8-154
天保8	7月7日		煎餅	200文	子安村鉄五郎より先日之礼として煎餅貳百文分持参	8-155

年	月日	閏月	項目	金額/数	内容	vol.-pp.
天保8	7月21日		亀ノ甲煎餅		和気天藏殿立寄亀ノ甲煎餅持参	8-158
天保8	9月4日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	8-166
天保8	9月14日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	8-167
天保8	9月22日		せんへい	100文	一、百文 せんへい代	8-169
天保8	10月19日		煎餅		一、百文 煎餅求 子供給料	8-173
天保8	10月28日		亀甲煎餅	200文/1袋	昨夜十左エ門妻おけんとの産見廻ニ来リ經節三本亀甲煎餅一袋代式百文分持参	8-175
天保8	11月1日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	8-176
天保8	11月18日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	8-179
天保8	12月11日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	8-182
天保9	2月24日		煎餅		一、式百文 煎餅らくかん代 利八江頼	8-201
天保9	3月1日		亀甲煎餅		一、亀甲煎餅 お滋	8-203
天保9	4月3日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代 利八頼	8-210
天保9	4月28日	閏月	煎餅	100文	一、百文 煎餅代	8-223
天保9	5月21日		亀ノ甲煎餅	/1袋	本宮喜平次地曳仕込ニ而鎌倉江人頼ニ参リ帰之由立寄亀ノ甲煎餅壹袋土産	8-283
天保9	6月3日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	8-285
天保9	9月5日		煎餅	50文	一、五拾文 煎餅代 梅二江土産ニ国次郎江頼求	8-304
天保10	2月19日		亀の甲煎餅	100文	一、百文 亀の甲煎餅	8-332
天保10	2月23日		煎餅	100文	一、百文 煎餅	8-333
天保10	2月27日		煎餅	100文	一、百文 煎餅	8-333
天保10	4月17日		煎餅		尾州様御家中ニ滝奉公いたし居昨日亀五郎参リ煎餅団扇貰	8-343
天保10	4月23日		せんへい	100文	今晩常吉馬喰町行日帰 買物品々覚 一、百文 せんへい(後略)	8-344
天保10	5月16日		せんへい	100文	一、百文 せんへい求	8-348
天保10	6月24日		塩煎餅 煎餅	/1重(塩煎餅) 100文(煎餅)	亀五郎御殿迄使(中略)梅干新古ニ而二重、割麦一袋、小麦粉一袋、齒噌干香物一曲、桃六拾余 お延方江遣ス 移リ白砂糖蓋物ニ一ツ塩煎餅壹重来ル(中略)一、百文 煎餅代	8-356
天保10	7月2日		煎餅	/1袋	伊勢屋新助殿石尊帰リ立寄煎餅一袋持参	8-357
天保10	7月2日		煎餅	50文	一、五拾文 煎餅代	8-357
天保10	9月22日		煎餅		神奈川西向寺看主来ル(中略)普請ニ付勸化帳持参致シ合鑑壹枚持参煎餅持参	8-373
天保10	9月27日		煎餅	/大箱3 /中箱1	神奈川可吉方よりお千恵方江箱入煎餅大箱三ツ中箱壹ツ經節五本来ル	8-373
天保10	10月7日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	8-375
天保11	1月25日		せんへい		兄病氣見廻酒代式百文常吉江手拭壹ツ小児へせんへい遣ス	9-006

関口日記調査表

年	月日	閏月	項目	金額/数	内容	vol.-pp.
天保11	2月29日		煎餅	1朱/大箱1 500文/小箱2	若菜屋ニ而大箱入煎餅老小箱入同ニ相求申候代はお千恵方入用ニ而払候 大箱代老朱、小箱代二ツ五百文	9-010
天保11	3月12日		亀甲煎餅	/1箱	青木町紀伊国屋母おてる儀宿下りニ参候由ニ而連来(中略) 土産 交魚一籠、小杉紙式束、亀甲煎餅一箱	9-013
天保11	4月14日		亀甲煎餅	100文	一、百文 亀甲煎餅	9-017
天保11	4月22日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代 昨日利八江頼	9-019
天保11	5月17日		煎餅	100文	一、百文 煎餅	9-024
天保11	5月28日		煎餅求	100文	一、百文 水飴代 一、百文 煎餅代 右二口利八江頼	9-026
天保11	6月4日		亀甲煎餅	400文	中野讃岐守様御隠居様今朝相州腰越村御出立ニ而御帰府(後略)藤屋迄東作参り御待申上候 一、四百文 亀甲煎餅 是は御侍衆江進申度旨申置候ニ付相求候亀五郎神奈川迄行	9-027
天保11	6月17日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	9-030
天保11	6月26日		煎餅		一、百文 大黒屋より土産煎餅代	9-031
天保11	6月29日		亀甲煎餅	100文	一、百文 亀甲煎餅	9-032
天保11	7月4日		亀甲煎餅	100文	西久保伊勢屋新介隣家八百屋立寄富士参詣戻リニ而明日新介立寄可申ニ付申置致ス七ツ時過新介来り止宿 土産 丸盆老枚亀甲煎餅百文捨りこまからから	9-033
天保11	7月23日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	9-037
天保11	8月17日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	9-040
天保11	9月26日		亀甲式文煎餅	100文	一、百文 亀甲式文煎餅 利八江頼求	9-047
天保11	10月2日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	9-048
天保11	12月10日		巻煎餅	100文	お千恵西御丸檀那樣江上ル常吉荷持ニ参ル (中略) 一、百文 巻煎餅 一、百文 青昆布 一、百文 干海苔 右買物常吉江頼	9-060
天保12	5月16日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	9-096
天保12	8月27日		煎餅	/1袋	遠州屋勘六福次郎同道ニ而来りお井野容体物語煎餅老袋持参	9-171
天保12	10月23日		煎餅		神奈川大黒屋迄おいの病氣見廻ニお千恵并母同道ニ而昼過より来ル 味曾漬香物、梨子大ふり五ツ、熟柿、煎餅神奈川ニ而求進	9-184
天保12	11月1日		亀甲煎餅	100文	一、百文 亀甲煎餅	9-185
天保13	1月25日		亀甲巻煎餅	/1折	お千恵病氣見廻として あなこ蒲焼拾六本亀甲巻煎餅老折	9-197
天保13	2月25日		巻煎餅	200文	一、貳百文 巻煎餅代 彦右エ門江頼	9-203
天保13	2月26日		亀甲煎餅		お千恵十三四日頃より歯痛止胸痛肩背中痛強痰気咳出發熱(中略) 所々見舞品々賞候分記置申候 (中略) 亀甲煎餅(利八)	9-204
天保13	3月11日		煎餅		深川上総屋老母より移リニ煎餅到来先日梅干遣シ申候	9-208
天保13	3月28日		煎餅	/1折	神奈川可吉方より昨二十七日烟艸老玉貰今日風呂敷返ス移ニ煎餅一折遣ス	9-210

年	月日	閏月	項目	金額/数	内容	vol.-pp.
天保13	4月1日		亀甲煎餅	100文	東作義肩痛ミ手利不申去月十五日頃より打臥罷在候右ニ付見舞品賞候軒数(中略) 亀甲煎餅百文(麦田屋隠居)	9-211
天保13	4月2日		巻煎餅	/1折	巻煎餅一折 嶋田屋遣ス	9-211
天保13	5月24日		亀ノ甲煎餅	100文	一、百文 亀ノ甲煎餅求	9-218
天保13	6月13日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代 豆腐屋善次足痛ニ而打臥罷在候由ニ付見廻ニ	9-220
天保13	7月20日		煎餅(かすてら煎餅?)		今出屋久左エ門かすてら煎餅持参	9-227
天保13	8月8日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代 国次郎江頼	9-230
天保13	8月12日		煎餅	100文	一、百文 神奈川ニ而煎餅求候代	9-276
天保13	9月10日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	9-280
天保14	1月22日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代 是は理吉帰リニ埋栗一袋と一緒ニ弟妹江遣ス	9-302
天保14	4月19日		亀甲煎餅	/12枚	次郎作娘はる江戸より引込土産持参 亀甲煎餅拾貳枚饅頭七ツ有	9-316
天保14	5月3日		亀甲煎餅	200文	一、貳百文 亀甲煎餅	9-317
天保14	5月13日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	9-319
天保14	6月26日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	9-326
天保14	7月12日		煎餅	100文	一、百文 煎餅求	9-329
天保14	8月15日		煎餅	100文	一、百文 煎餅求	9-333
天保14	8月24日		煎餅	100文	西久保伊勢屋新介殿昨夕神奈川泊ニ参リ今朝立寄(中略) 喜撰茶壺斤煎餅百文分土産持参	9-334
天保14	11月11日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	10-013
天保14	11月15日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	10-014
天保14	12月14日		煎餅		一、六拾四文 いまさか有切煎餅足シ候而号屋江悔ニ遣ス 外ニ煎餅足シ遣ス	10-020
天保15	1月7日		あるへいせんへい	200文	東作出府鶴見同道亀五郎供ニ連ル(中略) 一、貳百文 あるへいせんへい	10-027
天保15	4月30日		煎餅	/1袋	馬場村より梅二朋輩壺人連柏餅壺重貫移ニ煎餅一袋遣ス	10-045
天保15	5月8日		亀ノ甲煎餅	2朱/2箱 100文/1袋	一、九百二十四文 江戸土産亀ノ甲煎餅求 壺朱箱入貳つ百文袋入壺つ	10-046
天保15	5月26日		亀甲煎餅	100文	一、百文 亀甲煎餅	10-048
天保15	6月16日		亀甲せんへい	100文	一、百文 亀甲せんへい	10-052
天保15	9月7日		亀甲煎餅	224文	進物鯉節拾本箱入二品亀甲煎餅箱入貳百二十四文 松魚節壺箱ハお解世話ニ相成候礼ニ遣じ申候	10-064
天保15	10月16日		煎餅		梅二昼過馬場江帰ル送り久左エ門 箱入煎餅若菜屋、柚子、子供手遊人形三品持参	10-119
天保15	12月11日		亀ノ甲煎餅	100文	保土ヶ谷山本屋おふち川崎新田屋迄参リ候序ニ寄亀ノ甲煎餅百文分持参	10-129

関口日記調査表

年	月日	閏月	項目	金額/数	内容	vol.-pp.
天保15	12月21日		煎餅	100文	今夕馬場久右衛門殿礼ニ来ル 酒壺升、煎餅百文、目録百疋	10-130
弘化2	1月5日		亀ノ甲煎餅	224文/1箱	満作神奈川通廻礼 供亀五郎 一、貳百二十四文 亀ノ甲煎餅箱入壺つ 馬場遺物ニ求	10-133
弘化2	1月12日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	10-134
弘化2	2月13日		亀甲煎餅	/15枚	馬場村稻荷ニ神楽有之由ニ而餅其外共賞候ニ付移ニすき身亀甲煎餅拾五枚遣シ候	10-137
弘化2	2月23日		亀甲煎餅	/7枚	岸市平方より艸団子一重賞移ニ有合亀甲煎(餅)七枚子供遣ス	10-139
弘化2	2月28日		亀甲煎餅	100文	一、百文 亀甲煎餅	10-140
弘化2	3月7日		亀ノ甲煎餅	450文/2箱	一、四百五拾文 亀ノ甲煎餅箱入式つ代	10-142
弘化2	3月29日		亀ノ甲煎餅	224文	一、貳百二十四文 亀ノ甲煎餅 お縫土産ニ遣ス	10-145
弘化2	4月2日		亀ノ甲煎餅	1朱/1箱	難波田八右衛門様二条御番ニ而御上リ桐屋ニ待請御目通致ス亀ノ甲煎餅壺朱箱献呈いたし候	10-146
弘化2	6月4日		煎餅		末吉屋六之介糺町迄罷越候間煎餅其外菓子貳百文相求	10-157
弘化2	7月14日		亀ノ甲煎餅		亀五郎お愛迎ニ紀伊国屋迄行薩摩芋亀ノ甲煎餅持参	10-164
弘化2	7月18日		亀ノ甲煎餅		馬場迄満作送り参ル亀ノ甲煎餅并子供手遊三品土産ニ遣ス	10-165
弘化2	10月27日		大黒煎餅	100文/36枚	一、百文 大黒煎餅三十六 今出屋頼求払済	10-182
弘化3	2月29日		亀甲煎餅	/1袋	昨日紀伊国屋三郎兵衛殿来ル(中略)産著持参お愛江土産亀甲煎餅壺袋	11-123
弘化3	3月28日		煎餅	/1箱	お滋お琴出府江戸客帰ル煎餅一箱遣ス	11-126
弘化3	4月21日		亀ノ甲煎餅	424文/1箱	一、四百二十四文 亀ノ甲煎餅壺箱難波田様江上ケ候品	10-314
弘化3	5月14日	閏月	煎餅		お滋誂候煎餅外ニ求	10-225
弘化3	5月20日	閏月	亀ノ甲煎餅		神奈川石屋惣五郎立寄亀ノ甲煎餅持参いたし候	10-225
弘化3	5月20日	閏月	煎餅	100文	一、百文 煎餅代神奈川ニ而求	10-317
弘化3	5月26日	閏月	煎餅	100文	一、百文 煎餅代	10-317
弘化3	7月8日		亀ノ甲煎餅	/1箱	お千恵知音之者高田植木屋女房湯治帰リ立寄亀ノ甲煎餅壺箱土	10-231
弘化3	8月1日		亀ノ甲煎餅		神奈川大助来ル亀ノ甲煎餅持参	10-235
弘化4	3月24日		巻煎餅	/1折	巻煎餅一折 浜田屋	11-002
弘化4	8月8日		煎餅		北町おその神奈川江煎餅求ニ参候由立寄	11-017
弘化4	8月24日		亀甲煎餅	400文/2箱	一、四百文 亀甲煎餅二箱号や鍋吉順太郎兩人江遣ス	11-097
弘化4	8月25日		亀ノ甲煎餅	/1箱	号屋鍋吉方江亀ノ甲煎餅壺箱遣し候	11-020
弘化4	10月14日		煎餅	/1箱	今朝満作馬場江帰ル煎餅壺箱遣し候	11-027
弘化5	7月12日		亀ノ甲煎餅	64文/1箱	一、六拾四文 亀ノ甲煎餅箱一ツ求難波田様献上手当	11-194
弘化5	8月22日		亀ノ甲煎餅	/1袋	今夕北勘四郎鶴見伊勢藤兩人来リ又々無尽加入之義頼亀ノ甲煎餅壺袋持参	11-133
弘化5	12月12日		亀ノ甲煎餅	/1袋	焼はせ数五十余亀ノ甲煎餅壺袋 伊勢屋遣ス	11-145

年	月日	閏月	項目	金額/数	内容	vol.-pp.
嘉永2	3月13日		亀ノ甲煎餅	100文	お愛清元師匠娘同道江戸行立寄亀ノ甲煎餅百文土産	11-222
嘉永2	4月12日		常盤屋		大黒屋江頼引菓子饅頭詔候常盤屋江申付候積	11-227
嘉永2	5月26日		豆煎餅	100文	一、百文 豆煎餅求	11-322
嘉永2	5月27日		玉子煎餅	/1折	今出屋久蔵江戸より帰り頼候買物持参おこう方より団扇式本到来玉子煎餅壹折別ニ自分貰候由持参	11-239
嘉永2	8月4日		亀ノ甲煎餅	48文	一、四拾八文 亀ノ甲煎餅	11-329
嘉永2	8月8日		亀ノ甲煎餅	1貫200文/ 大箱2、小箱2	一、壹貫貳百文 お愛江戸土産亀ノ甲煎餅大箱貳つ小箱貳つ求	11-330
嘉永2	8月8日		煎餅	64文	一、六拾四文 煎餅小箱一ツ求箱計一ツ求候分	11-330
嘉永2	8月17日		亀ノ甲煎餅	/1袋	今夕今出屋久蔵鎌倉帰り立寄亀ノ甲煎餅壹袋土産	11-250
嘉永2	12月30日		ときわや		一、金貳分貳朱ト六百四十八文 右同断盛物饅頭当日引菓子代共ときわや払	11-345
嘉永3	1月8日		亀ノ甲煎餅	1分48文 /大箱2、小箱4	一、金壹分四拾八文 江戸土産亀ノ甲煎餅常盤屋ニ而求大二箱小四箱	12-103
嘉永3	4月9日		木の葉せんへい		紀伊国や幸次郎江戸帰立寄木の葉せんへい土産持参	12-012
嘉永3	6月6日		亀ノ甲煎餅	200文/1箱	羽沢屋佐太郎来ル亀ノ甲煎餅貳百文箱入持参	12-018
嘉永3	8月3日		亀ノ甲せんへい		本宮七郎右衛門倅仙次郎神奈川江富士土産亀ノ甲せんへい求ニ行候ニ付当方ニ而頼求申候	12-027
嘉永3	8月3日		(四文) 亀ノ甲煎餅	800文	一、八百文 四文亀ノ甲煎餅常盤や求満作富士土産入用ニ求	12-118
嘉永3	8月4日		大亀ノ甲煎餅	/174枚+α	満作富士土産所々江配ル 一、春慶角食壹枚、大亀ノ甲煎餅十式枚、こま三つ(本家与次右衛門) 一、同角盆壹枚、同せんへい十式枚、こま壹つ(甚五郎) 一、同角盆壹枚、同せんへい十壹枚、こま式つ(源助) 一、同角盆式枚、同せんへい十式枚、茶台壹つ、こま式つ(亀五郎) (後略)	12-027
嘉永3	9月12日		亀ノ甲煎餅	200文/1箱	一、貳百文 号屋おてる江戸より来亀ノ甲煎餅一箱遣ス	12-122
嘉永3	9月26日		せんへい	100文	一、百文 南国次郎出府之節せんへい求候代	12-125
嘉永3	11月29日		常盤屋		梧英居士三回忌取越法会致候ニ付盛物小麦饅頭数三百三十かな川常盤屋より今朝持参所々江配ル	12-042
嘉永3	12月1日		亀ノ甲煎餅	400文/1箱	所々より仏前江到来物覚 (中略) 一、金五拾疋、亀ノ甲煎餅四百文箱(紀伊国や三郎兵衛)	12-043
嘉永3	12月22日		亀ノ甲煎餅	400文	一、四百文 お愛方遣し候亀ノ甲煎餅求	12-132
嘉永3	12月26日		常盤や		一、金三分ト百二十四文 亡父三回忌盛物饅頭当日引菓子常盤や払之分大黒や江遣ス	12-133
嘉永4	1月8日		亀ノ甲煎餅	600文/2箱 600文/3箱	一、壹貫貳百文 亀ノ甲煎餅三百文二箱貳百文三箱求お愛其外年玉物	12-137

関口日記調査表

年	月日	閏月	項目	金額/数	内容	vol.-pp.
嘉永4	4月7日		亀ノ甲煎餅	/大箱1	亀ノ甲煎餅大箱一(升屋勝太郎升屋米太郎両人名前) 右之通土産持参酒食出ス	12-063
嘉永4	5月10日		亀ノ甲煎餅	/1箱	西ノ久保伊勢屋新助殿江ノ嶋参詣帰之由立寄亀ノ甲煎餅壹箱土	12-067
嘉永4	6月6日		煎餅	/10枚	本家覚太郎宿下リ砂糖壹袋煎餅拾枚到来	12-156
嘉永4	6月7日		亀ノ甲煎餅	200文/1箱	本家覚太郎方江亀ノ甲煎餅貳百文箱入壹ツ遣ス	12-156
嘉永4	7月19日		巻せんへい		一、五百文 塩かま巻せんへい おまち近所土産ニ求	12-243
嘉永4	7月25日		亀ノ甲せんべい	248文/2箱	一、貳百四拾八文 同人(おまち)金昆羅様并お愛方土産亀ノ甲せんべい二箱代	12-244
嘉永4	7月25日		亀ノ甲煎餅	700文/3箱	一、七百文 亀ノ甲煎餅三箱戸塚親類土産求	12-244
嘉永4	7月26日		亀ノ甲煎餅 同巻煎餅		紀三出立おまち戸塚江帰ル(中略) 土産物覚 亀ノ甲巻煎餅箱(升忠)、亀ノ甲煎餅壹箱(升佐)、同巻煎餅壹箱(升善)、亀ノ甲煎餅三百文箱(升文)、同貳百文箱(中升)	12-164
嘉永4	9月30日		亀ノ甲せんへい	400文/1折 200文/1折	一、六百文 亀ノ甲せんへい折四百文壹ツ貳百文壹ツ	12-249
嘉永5	1月9日		亀ノ甲ある平巻煎餅	/1箱	升屋保太郎佐助殿同道ニ而年礼ニ来ル(中略) 扇子壹対、半紙貳帖、亀ノ甲ある平巻煎餅壹箱(保太郎歳玉)	12-182
嘉永5	1月23日		巻煎餅	/1箱	神奈川栄四郎三文字屋代二年礼ニ来ル巻煎餅一箱扇子壹対年	12-184
嘉永5	1月28日		亀ノ甲煎餅	100文/1袋	戸塚宿老母おまち連年礼ニ被参候三文字やおたいとの同道(中略) 百文亀ノ甲煎餅壹袋、半紙壹帖(三文字やおたいとの)	12-185
嘉永5	2月12日	閏月	あるへい巻煎餅	/1箱	満作戸塚宿行升屋文蔵殿老父去ル九日死去今日葬礼いたし候ニ付香奠百疋持参八升江あるへい巻煎餅壹箱土産持参	12-191
嘉永5	2月23日	閏月	あるへい巻煎餅	/1折	江戸屋勘四郎上京留守ニ付見舞ニ行あるへい巻煎餅壹折持参	12-192
嘉永5	3月15日		亀ノ甲煎餅	/1折	おため方江亀ノ甲煎餅一折鶏卵二十四入壹箱遣ス	12-198
嘉永5	4月18日		亀甲煎餅	64文/1箱	一、六拾四文 亀甲煎餅箱一つ玉子入進物手当難波田様二条御	12-278
嘉永5	9月23日		亀ノ甲せんへい	/9枚	末よしやおたか勝次郎同道ニ而江ノ嶋参詣帰リ亀ノ甲せんへい九枚土産おみね持参	12-305
嘉永6	1月10日		亀ノ甲煎餅	/1箱	北町勘四郎方より薯蕷汁いたし被招行亀ノ甲煎餅箱入一ツ持参	12-319
嘉永6	3月11日		唐松せんへい	/1折	升屋老父江戸帰立寄中升子息同道 唐松せんへい一折老父土産	12-325
嘉永6	4月1日		唐松煎餅	/1折	昼後東寺尾宗左衛門殿馬場村久右衛門殿迄行山本山老袋東寺尾進物唐松煎餅一折	12-327
嘉永6	5月4日		唐松煎餅	/1箱	戸塚宿升屋宜作事初節句昨年延シ当年ニいたし候間今日参ル亀五郎供 右之通祝遣し候(中略) 升佐江 唐松煎餅壹箱	12-331
嘉永6	6月10日		亀ノ甲煎餅	/1箱	築地おさと帰ル鶴見大黒や迄連之者参候由麻前掛地壹ツ亀ノ甲煎餅壹箱遣ス	12-334
嘉永6	8月18日		巻せんへい	224文/1箱	一、貳百二十四文 紀伊国やへ参候節巻せんへい一箱求	13-078

年	月日	閏月	項目	金額/数	内容	vol.-pp.
嘉永6	8月30日		亀ノ甲煎餅	/1箱	東寺尾村宗左衛門殿迄行出府留守ニ而不逢亀ノ甲煎餅一箱(中略)持参	13-004
嘉永6	9月5日		亀ノ甲煎餅	200文/1箱	大黒屋齋三郎死去ニ付所々より悔追々到来之分此所江記し置候(中略) 貳百文 一、亀ノ甲煎餅一箱(元宮喜平次)	13-005
嘉永7	3月20日		唐松煎餅	/1折	戸塚老父江戸より帰ル唐松煎餅一折土産	13-023
嘉永7	5月23日		巻煎餅 亀ノ甲煎餅	/1袋(巻) /1袋(亀)	戸塚よりおまち来ル二男民三郎初而連来ル守小女老入供 巻煎餅 壹袋、亀ノ甲煎餅同、小麦粉同 土産	13-028
嘉永7	7月10日		唐松煎餅	/1折	おとく神奈川行下女なつ供ニ行 索麴七把、鶏卵二十五、唐松煎餅壹折(紀三)	13-029
嘉永7	9月22日		巻せんへい	/1折	大久保土屋順多郎嫁六才之男子連(中略)立寄 巻せんへい一折、紙包たはこ壹つ、半切壹包 土産	13-036
嘉永7	10月18日		亀ノ甲煎餅	/1箱	宜作方江亀ノ甲煎餅壹箱遺ス移リニ自然生到来	13-039
嘉永7	11月14日		あるへい巻せんへい		升屋宜作事三才賀ニ付戸塚江行亀五郎供(中略) あるへい巻せんへい(升佐)、菓子壹折(中升) 右之通土産持参立寄申候	13-043
嘉永7	12月3日		亀ノ甲煎餅	400文/1箱	仏前江到来物覚(中略) 四百文 一、亀ノ甲煎餅壹箱(おすみ)	13-045
安政2	7月14日		唐松煎餅	/大折1	おたへ北町江盆礼ニ遣し候下女さた送り 索麴九把、唐松煎餅大折入一 右持参いたし候	13-123
安政3	1月20日		巻煎餅	/1折	外保太郎おまち年玉持参 扇子壹対、半紙貳帖、巻煎餅壹折、白砂糖壹折	13-142
安政3	5月5日		亀ノ甲せんへい	/1袋	神奈川横町麴やおつる江戸屋行立寄亀ノ甲せんへい一袋持参	13-198
安政3	5月21日		亀甲煎餅	/1折	去ル十八日戸塚升善内方死去ニ付満作戸塚江行(中略) 亀甲煎餅折詰一ツ八升江海ニ遣	13-200
安政3	6月7日		亀ノ甲煎餅		おたへ北町江行亀ノ甲煎餅口桐土産	13-201
安政3	7月22日		亀甲煎餅	/1箱	お解今日戸塚行おまち出産見舞亀五郎供 味噌漬大根壹重、干瓢壹重、亀甲煎餅壹箱、大梨子三十五壹籠(戸塚江)	13-207
安政4	3月7日		亀ノ甲煎餅	/1袋	北おその当年初而来ル亀ノ甲煎餅壹袋年玉持参	13-229
安政4	9月29日		木の葉煎餅	/1折	戸塚幸助殿内方おすとの先日御屋敷江御礼上り致し帰之由立寄木の葉煎餅一折、麦はら細工笛壹つ 土産	13-252
安政4	10月26日		亀ノ甲巻煎餅	/1袋	江戸屋軍蔵鎌倉より帰り亀ノ甲巻煎餅一袋土産持参	14-002
安政5	4月25日		あるへい巻煎餅		英太郎疱瘡見舞到来覚(中略) 一、あるへい巻煎餅、犬はりこ(麴屋惣左衛門)	14-018
安政5	5月5日		有平巻煎餅		獅子ヶ谷村五郎兵衛殿来ル有平巻煎餅小折詰持参	14-019
安政5	5月14日		有平巻せんへい	/1折	遠州屋勘六殿内方来ル有平巻せんへい壹折土産茶菓出ス	14-019
安政5	6月27日		亀ノ甲煎餅		今朝おまち帰ル(中略) 焼酎壹陶、真桑瓜、亀ノ甲煎餅 土産ニ	14-023
安政5	10月7日		唐松煎餅	/1折	戸塚老父江戸より帰ル昼飯出ス唐松煎餅壹折土産	14-031

関口日記調査表

年	月日	閏月	項目	金額/数	内容	vol.-pp.
安政5	10月16日		煎餅		本家おふみ鎌倉十夜行昨夜帰候由まんちう煎餅少土産到来	14-032
安政5	10月18日		唐松煎餅	/1折	おたえ北町江行英太郎召連下女はる供唐松煎餅一折持参	14-032
安政5	12月9日		あるへい巻煎餅	/1折	おたえ北町江行英太郎召連下女はる供あるへい巻煎餅一折持参	14-036
安政6	1月13日		あるへい巻煎餅	/1折	戸塚保太郎年礼ニ来ル(中略) あるへい巻煎餅一折、扇子壺対、半紙壺帖 歳玉	14-038
安政6	1月23日		あるへい巻煎餅		江戸屋祖父三十七回忌曾祖母百回忌法会并納経供養致ス(中略) あるへい巻煎餅一折 年玉	14-039
安政6	3月13日		亀甲煎餅	/1箱	南十左衛門殿おとく病気見舞ニ来ル亀甲煎餅壺箱持参	14-043
安政6	3月28日		亀甲煎餅	/1袋	和氣おふくとの娘同道来ル亀甲煎餅壺袋土産	14-044
安政6	7月10日		巻煎餅	/1袋	江戸屋軍蔵温泉より帰り土産物到来 手拭壺筋、巻煎餅壺袋、なまり節壺本 子守持参	14-112
安政6	10月6日		亀ノ甲煎餅	100文/1袋	昨五日八升老母来ル民次郎同道(中略) 米粉壺袋、亀ノ甲煎餅百文袋入 土産	14-120
安政6	10月20日		亀ノ甲煎餅	/1袋	神奈川横町紀伊国屋源三郎方伯母立寄亀ノ甲煎餅壺袋丸柿持参	14-121
安政7	1月17日		亀ノ甲煎餅	/1袋	北おその年礼ニ来ル亀ノ甲煎餅壺袋持参酒出ス	14-129
安政7	1月24日		有平巻煎餅		北町通り年礼行(中略) 有平巻煎餅、手拭壺筋(江戸屋) 右之通持参いたし候	14-130
安政7	1月24日		一文せんべい	100文	一、百文 戸塚清蔵頼一文せんべい求	14-219
安政7	2月2日		一文煎餅		一、貳百拾六文 神奈川ニ而一文煎餅求 使五郎右衛門ちん銭共	14-220
安政7	3月19日		一文煎餅	100文	一、百文 一文煎餅求	14-224
安政7	3月18日	閏月	煎餅		一、百四拾八文 煎餅求五郎右衛門先日中よりちんせん共	14-228
安政7	4月2日		せんべい	100文	一、百文 せんべい	14-229
安政7	5月21日		煎餅	100文	一、百文 煎餅代	14-233
安政7	6月13日		一文煎餅	100文	一、百文 一文煎餅求	14-236
安政7	6月24日		亀甲有平巻煎餅	/1折 /小折1	戸塚保太郎江戸行立寄亀甲有平巻煎餅壺折東作病気見舞ニ持参 升忠子息同道是亦同断品小折土産持参	14-146
安政7	6月28日		有平巻煎餅	/1箱	江戸屋母来ル二十三日神奈川麩屋同道富士参詣ニ参り候由東右衛門見舞ニ行有平巻煎餅壺箱持参	14-146
安政7	7月16日		巻せんへい	/1袋	浜宿八ノ字お恵津立寄巻せんへい壺袋持参	14-148
安政7	10月24日		亀ノ甲煎餅		江戸屋母神奈川帰立寄亀ノ甲煎餅土産	14-154
安政7	12月6日		巻煎餅	/1折	大黒屋紋次郎来ル酒食出ス亡父十三回取越法会之節招候得共不参ニ而今日墓参いたし候由 金五拾疋仏前江供 外巻煎餅壺折 焼はぜ等土産	14-160
安政7	12月10日		あるへい巻煎餅	/1折	江戸屋軍蔵娘おのふ疱瘡之由見舞あるへい巻煎餅一折遣ス	14-160

年	月日	閏月	項目	金額/数	内容	vol.-pp.
万延2	1月28日		ある平巻煎餅	/1箱	大黒屋おくま年礼ニ来ル(中略) ある平巻煎餅壹箱、扇子壹対、箱入猪口壹ツ 年玉	14-272
万延2	3月17日		亀ノ甲煎餅	/1袋	北おその当年初而来ル亀ノ甲煎餅一袋持参	14-276
万延2	4月17日		亀甲煎餅	/大箱1	浜八ノ字嫁之里嶋田屋母親今日江戸屋江参候由土産亀甲煎餅大箱一ツ届ク帰之節立寄	14-279
万延2	5月16日		あるへい巻煎餅		夕刻山口屋藤兵衛来ル酒食出ス止宿 山本山茶壹袋、あるへい巻煎餅、画草紙三部 土産	14-282
文久2	3月6日		亀甲煎餅	/1折	神奈川横町麩屋おつる立寄吉五郎殿後妻同道初而当方江来ル亀甲煎餅壹折興津鯛開キ三枚土産持参	14-309
文久2	3月19日		亀甲煎餅		植木屋安五郎立寄亀甲煎餅土産	14-310
文久2	4月7日		亀甲煎餅	/7枚	本家直吉江戸より来ル 茶壹袋、团扇式本、絵草紙絵紙、亀甲煎餅七枚 土産来ル	14-312
文久2	5月11日		亀甲煎餅	/1袋	戸塚清蔵江戸行遅ク出立之由ニ而止宿亀甲煎餅一袋土産	14-315
文久2	7月23日		亀ノ甲煎餅	/1袋	子蔵伝蔵先日より麻疹ニ相臥候処今日同人親父駕籠ニ而迎ニ来ル亀ノ甲煎餅壹袋持参	15-009
文久2	9月15日		(かすてら)玉子煎餅		一、壹ノ百文 かすてら玉子煎餅其外菓子求	14-350
文久3	1月8日		亀甲煎餅	/1箱	昨日本宮おりん土産として手拭二筋到来いたし候ニ付同人へ亀甲煎餅壹箱遣ス	15-044
文久3	1月19日		亀ノ甲煎餅	/1袋	北町通りへ行太郎兵衛へ亀ノ甲煎餅一袋持参	15-046
文久3	3月8日		巻せんへい	148文	一、百四十八文 巻せんへい大こくやへ土産遣ス	15-146
文久3	3月11日		巻せんへい	100文	一、百文 巻せんへい求	15-147
文久3	3月13日		亀ノ甲せんへい	/1箱(24枚)	潜誉東溟吟龍居士百ケ日ニ当リ候(中略) 仏前江到来物覚(中略) 一、亀ノ甲せんへい式拾四入箱一(紀伊国や三郎兵衛)	15-053
文久3	4月6日		巻せんべい	200文	一、式百文 巻せんべい求	15-150
文久3	6月2日		有平巻煎餅		和気娘おふくと保土ヶ谷より帰り夕刻当方へ来り止宿有平巻煎餅持参	15-062
文久3	6月19日		亀ノ甲煎餅	/1袋	清蔵江戸行茶漬出ス同人儀おたゑ見舞として亀ノ甲煎餅一袋持参	15-064
文久3	6月23日		巻煎餅		北彦兵衛方より魚到来 右着之内煮附ニいたし末吉屋勝五郎先日中より来り当方へ巻煎餅少々持参いたし候ニ付遣ス	15-065
文久3	7月27日		亀の甲煎餅	200文	一、式百文 亀の甲煎餅求	15-161
文久3	8月8日		有平巻煎餅		東右衛門神奈川助郷会所江猿屋町御利足請取ニ行久右衛門殿隠宅江立寄有平巻煎餅折持参	15-072
文久3	8月14日		亀ノ甲煎餅		おたゑ万年屋江行小兒不快ニ付見舞阿部川餅持参序ニ江戸屋江行先日中桐屋女一条軍蔵殿立替金子七両式分也持参亀ノ甲煎餅	15-072
文久3	8月14日		亀ノ甲煎餅	100文	一、百文 亀ノ甲煎餅求	15-163

関口日記調査表

年	月日	閏月	項目	金額/数	内容	vol.-pp.
文久3	9月27日		有平巻煎餅		江戸屋へ行有平巻煎餅箱持参	15-078
文久4	1月17日		玉子煎餅	/1箱	今昼後おたえ子供五人連北迄年始行下女きく供 (中略) 玉子煎餅一箱、白砂糖壺袋、宝来豆壺袋(江戸屋江)	15-211
文久4	3月1日		亀ノ甲	200文/1箱	光誉柏葉明照大師三拾三回忌ニ相当り候(中略) 仏前江到来物(中略) 一、貳百文亀ノ甲箱(六郎右衛門)	15-215
文久4	4月26日		亀ノ甲煎餅	200文/1箱	昨二十五日向伝七女房江戸より一寸来り候由ニ而土産物遣し候間今日うま煮一鉢并亀ノ甲煎餅貳百文箱添客人江遣し候	15-220
文久4	5月4日		亀ノ甲煎餅	/1箱	勘次郎内方糍屋母兩人出産見舞来ル 亀ノ甲煎餅壺箱(庄三郎より)、麩少々(出見世より)	15-221
文久4	5月5日		亀甲煎餅	/1箱	鶴見仲宿より節句赤飯壺重鶏卵来ル移ニ亀甲煎餅壺箱遣ス	15-221
文久4	7月27日		亀甲煎餅	100文	一、百文 亀甲煎餅求	15-313
文久4	8月4日		せんへい	100文	一、百文 せんへい求	15-314
文久4	8月10日		亀ノ甲煎餅	100文	一、百文 亀ノ甲煎餅求	15-315
文久4	8月20日		せんへい	100文	一、百文 せんへい求	15-316
文久4	9月10日		亀ノ甲煎餅	200文/1箱	昨九日西ノ久保利吉外老人立寄(中略) 茶壺袋、亀ノ甲煎餅貳百文箱 土産到来	15-236
文久4	9月11日		有平巻	/1折	戸塚老父江戸行升や善藏同道有平巻壺折土産	15-236
元治2	1月7日		有平巻	/1折	今夕刻より江戸屋へ被招行万年屋八郎右衛門同道ニ而酒馳走ニ成 有平巻壺折進物遣ス	15-352
元治2	1月29日		煎餅	100文	一、百文 神奈川行煎餅求	15-462
元治2	4月4日		有平巻せんへい	/1折	六郎右衛門方法会明日相被招居候得共風邪ニ付今日仏前へ金五拾疋、有平巻せんへい壺折供	15-362
元治2	4月8日		せんへい	100文	一、百文 せんへい求	15-470
元治2	4月15日		亀ノ甲煎餅		おたゑ子供連北へ行 鮓壺箱、亀ノ甲煎餅(江戸屋土産) 亀ノ甲煎餅壺袋(勘次郎方へ同)	15-365
元治2	4月15日		亀甲せんへい	200文	一、貳百文 亀甲せんへい求	15-471
元治2	5月9日		せんへい	200文	一、貳百文 せんへい求	15-474
慶応2	3月14日		木ノ葉煎餅	/1折	今日おたゑ与次右衛門後妻連江戸屋へ行順之助連供らく行 木ノ葉煎餅壺折、洋かん壺ツ 土産	16-009
慶応2	7月11日		巻せんべい	100文	一、百文 巻せんべい求	16-121
慶応2	8月7日		巻せんへい		一、貳百文 菓子巻せんへい求	16-125
慶応2	9月7日		せんべい	200文	一、貳百文 神奈川ニ而せんべい求	16-128
慶応3	12月24日		巻煎餅	100文	一、百文 巻煎餅求	16-299
慶応4	1月17日		瓦せんへい		昼後おたゑ健次郎順之助連江戸屋へ年始行平吉供夜ニ入帰ル右年玉 (中略) 瓦せんへい箱、金平糖一箱(江戸屋)	16-326

年	月日	閏月	項目	金額/数	内容	vol.-pp.
慶応4	3月28日		煎餅	300文	一、三百文 煎餅求	16-424
慶応4	4月1日		せんべい		一、八百文 菓子せんべい求	16-424
慶応4	4月12日		せんべい	800文	一、八百文 せんべい求遺物 伊右衛門八郎左衛門遣し候	16-425
慶応4	4月13日		せんべい	300文	一、三百文 せんべい求	16-425
慶応4	4月17日		せんべい		一、金壺朱ト壺貫二十四文 戸塚遺物せんべい塩かま求	16-426
慶応4	5月1日		亀ノ子煎餅		おたゑ北町へ行江戸屋倉吉儀当年節句いたし候積ニ付祝儀として金貳百疋持参夫ニ江戸屋母儀両三日瘡之様子ニ付見舞ニ行海苔貳帖、亀ノ子煎餅持参	16-338
慶応4	5月1日		煎餅	200文	一、貳百文 煎餅江戸屋へ遣ス	16-429
慶応4	6月1日		せんべい	200文	一、貳百文 せんべい求	16-432
慶応4	6月6日		巻せんべい	100文	一、百文 巻せんべい求	16-433
慶応4	6月15日		煎餅	100文	一、百文 煎餅求	16-434
慶応4	7月17日		巻せんべい		一、貳百四十八文 子供月掛銭巻せんべい求	16-437
慶応4	7月18日		せんべい	200文	一、貳百文 せんべい求	16-437
慶応4	7月26日		巻煎餅		一、五百文 巻煎餅并たゑ髪ゆい銭	16-438
慶応4	8月1日		煎餅		一、三百文 菓子煎餅求	16-439
慶応4	8月6日		煎餅		一、貳百文 煎餅落雁求	16-439
慶応4	8月9日		巻煎餅	200文	一、貳百文 巻煎餅求	16-440
慶応4	8月12日		亀甲煎餅		戸塚より平吉親父使ニ来り先日当方盗賊遣入候見舞来り (中略) 平吉親父より亀甲煎餅持参	16-351
慶応4	9月2日		巻煎餅	/1折	北小嶋来り昨夜帰宅いたし候由 巻煎餅壺折修善寺□□壺枚持	16-353
慶応4	9月9日		煎餅		一、貳百文 煎餅菓子	16-442
慶応4	9月12日		巻煎餅	/1折	岸善右衛門来り巻煎餅壺折持参是ハ東右衛門先日中より風邪ニ而不快見舞之由	16-354
慶応4	9月15日		せんべい		一、六百十貳文 粉茶せんべい	16-443
慶応4	9月17日		巻煎餅	/1折	勘次郎儀当方へ病氣見舞(中略)同人方悴浜吉儀先達而中怪我いたし候ニ付当方より見舞未だ遣し不申ニ付巻煎餅壺折直ニ遣ス	16-355
慶応4	9月21日		巻煎餅	300文	一、三百文 巻煎餅求	16-443
慶応4	9月29日		巻煎餅	300文	一、三百文 巻煎餅求	16-444
慶応4	10月6日		巻煎餅		一、六百文 巻煎餅さつぱ求	16-445
慶応4	10月9日		せんべい	200文	一、貳百文 せんべい求	16-446
慶応4	10月11日		せんべい		一、三百文 せんべい髪ゆい銭共	16-446
慶応4	10月21日		煎餅	300文	一、三百文 煎餅求江戸屋土産	16-447
慶応4	10月24日		煎餅	200文	一、貳百文 煎餅求	16-448
慶応4	10月27日		せんべい	200文	一、貳百文 せんべい求	16-448

関口日記調査表

年	月日	閏月	項目	金額/数	内容	vol.-pp.
慶応4	11月2日		巻煎餅	200文	一、貳百文 巻煎餅求	16-449
慶応4	11月2日		煎餅	300文	一、三百文 煎餅求	16-449
慶応4	11月12日		せんべい		一、九百文 さつまいもせんべい求	16-450
慶応4	11月15日		煎餅	400文	一、四百文 煎餅求	16-451
慶応4	12月3日		煎餅	200文	一、貳百文 煎餅求	16-453
慶応4	12月7日		煎餅	200文	一、貳百文 煎餅求	16-454
慶応4	12月8日		巻煎餅	600文	一、六百文 巻煎餅求	16-454
慶応4	12月9日		煎餅	300文	一、三百文 煎餅求	16-454
明治2	1月17日		亀甲煎餅		昼後おたゑ健次郎順之助連北町江年始二行 亀甲煎餅貳百文 (今出屋江) (中略) 亀甲煎餅老袋、半紙老帖(太郎兵衛) (中略) 白砂糖老袋、亀甲煎餅老袋(江戸屋江)	17-003
明治2	1月17日		亀ノ甲煎餅	700文	一、七百文 たゑ北丁江年始之砌亀ノ甲煎餅求	17-077
明治2	1月24日		煎餅		一、四百文 煎餅菓子求	17-078
明治2	1月27日		煎餅		一、三百文 煎餅菓子求	17-078
明治2	2月11日		煎餅		一、三百文 煎餅菓子求	17-081
明治2	2月20日		煎餅	200文	一、貳百文 煎餅求	17-082
明治2	4月20日		煎餅	200文	一、貳百文 煎餅求	17-088
明治2	5月9日		煎餅	200文	一、貳百文 煎餅求	17-090
明治2	5月25日		煎餅	200文	一、貳百文 煎餅求	17-092
明治2	6月3日		煎餅	300文	一、三百文 煎餅求	17-093
明治2	6月28日		煎餅	400文	一、四百文 煎餅求	17-097
明治2	7月2日		煎餅	400文	一、四百文 煎餅求	17-097
明治2	7月9日		煎餅	400文	一、四百文 煎餅求	17-098
明治2	7月17日		せんへい	300文	一、三百文 せんへい江戸屋遣ス	17-100
明治2	7月18日		煎餅	200文	一、貳百文 煎餅求	17-100
明治2	7月21日		せんへい	400文	一、四百文 せんへい求	17-100
明治2	7月24日		せんへい		一、七百文 いわしせんへい求	17-100
明治2	8月10日		せんへい	300文	一、三百文 せんへい求	17-101
明治2	8月12日		煎餅		一、七百文 煎餅髪ゆい共	17-101
明治2	8月15日		煎餅	600文	一、六百文 煎餅求	17-102
明治2	9月16日		せんべい	400文	一、四百文 せんべい求	17-105
明治2	9月19日		せんへい	400文	一、四百文 せんへい求	17-105
明治2	9月19日		せんへい	300文	一、三百文 せんへい求	17-105
明治2	9月21日		せんへい		一、貳百八十文 せんへい豆腐代払	17-105
明治2	9月27日		煎餅	600文	一、六百文 煎餅求	17-106

年	月日	閏月	項目	金額/数	内容	vol.-pp.
明治2	10月8日		煎餅		一、七百文 煎餅樽柿求	17-107
明治2	10月15日		煎餅	400文	一、四百文 煎餅求	17-108
明治2	10月27日		巻煎餅	/1折	今昼後馬場久右衛門殿方へ行(中略)巻煎餅老折持参	17-034
明治2	10月27日		巻せんべい	600文	一、六百文 巻せんべい求	17-110
明治2	11月1日		煎餅	300文	一、三百文 煎餅求	17-110
明治2	12月9日		煎餅		一、四百文 煎餅髪ゆい銭	17-116
明治2	12月11日		煎餅	600文	一、六百文 煎餅求	17-116
明治2	12月16日		煎餅	400文	一、四百文 煎餅求	17-116
明治2	12月29日		煎餅		一、八百文 水飴煎餅求江戸屋へ遣し候分	17-118
明治3	1月9日		煎餅	300文	一、三百文 煎餅求	17-192
明治3	1月9日		煎餅	700文	一、七百文 煎餅求	17-192
明治3	1月10日		亀甲煎餅 巻煎餅	600文(亀甲)	おたゑ順之助連江戸屋へ年始行(中略)亀甲煎餅三百文、のり 壺帖(すさみ屋)亀甲煎餅同断、半切壺包(万年屋)(中略)白 砂糖、のり、巻煎餅(江戸屋)	17-134
明治3	1月10日		煎餅	1貫500文	一、壺貫五百文 煎餅所々年玉入用	17-193
明治3	1月15日		せんべい	600文	一、六百文 せんべい求	17-193
明治3	1月21日		煎餅		一、五百文 煎餅髪ゆい銭	17-194
明治3	1月22日		煎餅	2貫500文	一、貳貫五百文 煎餅紀三見せの者へ遣候	17-194
明治3	2月4日		せんべい	200文	一、貳百文 せんべい求	17-195
明治3	2月11日		玉子煎餅	700文	一、七百文 玉子煎餅求	17-195
明治3	2月14日		玉子煎餅	/1折	昨日戸塚留蔵儀佐助殿大病ニ付親父儀東京出府ニ付迎ニ行おま ちより右手紙遣し候ニ付玉子煎餅老折見舞遣候	17-137
明治3	3月19日		煎餅	500文	一、五百文 煎餅求	17-198
明治3	3月26日		煎餅	400文	一、四百文 煎餅求	17-199
明治3	3月29日		煎餅		一、五百文 煎餅髪ゆい銭	17-199
明治3	4月1日		煎餅	500文	一、五百文 煎餅求	17-199
明治3	4月2日		煎餅	400文	一、四百文 煎餅求	17-199
明治3	4月3日		せんべい	400文	一、四百文 せんべい求	17-199
明治3	4月5日		せんべい		一、五百文 菓子せんべい求	17-199
明治3	4月8日		塩せんべい	300文	一、三百文 塩せんべい求	17-200
明治3	4月14日		巻せんべい	1貫文	一、壺貫文 巻せんべい求	17-200
明治3	4月15日		せんべい	200文	一、貳百文 せんべい求	17-200
明治3	4月16日		巻せんべい	700文	一、七百文 巻せんべい求	17-201
明治3	4月16日		巻せんべい	300文	一、三百文 巻せんべい求	17-201
明治3	4月18日		巻せんべい	300文	一、三百文 巻せんべい求	17-201

関口日記調査表

年	月日	閏月	項目	金額/数	内容	vol.-pp.
明治3	4月22日		せんべい	400文	一、四百文 せんべい求	17-202
明治3	4月24日		せんべい	500文	一、五百文 せんべい求	17-201
明治3	5月1日		煎餅		一、六百文 煎餅菓子求	17-202
明治3	5月4日		煎餅	400文	一、四百文 煎餅求	17-202
明治3	5月10日		煎餅	600文	一、六百文 煎餅求	17-203
明治3	5月11日		巻煎餅	400文	一、四百文 巻煎餅求	17-203
明治3	5月18日		煎餅	300文	一、三百文 煎餅求	17-204
明治3	5月20日		巻煎餅	300文	一、三百文 巻煎餅求	17-204
明治3	5月24日		せんへい	300文	一、三百文 せんへい求	17-205
明治3	5月29日		せんへい	300文	一、三百文 せんへい求	17-205
明治3	6月18日		せんべい	300文	一、三百文 せんべい求	17-208
明治3	7月6日		煎餅		一、六百四十八文 髪ゆい煎餅共	17-211
明治3	7月9日		せんへい		一、壹貳百文 瓜井せんへい求	17-211
明治3	7月15日		煎餅	300文	一、三百文 煎餅求	17-212
明治3	7月20日		揚せんべい		一、五百六十四文 とうふ揚せんべい求	17-213
明治3	7月21日		せんへい		一、壹貫文 せんへいいいな求	17-213
明治3	7月23日		せんへい	600文	一、六百文 せんへい求	17-213
明治3	7月24日		せんへい	400文	一、四百文 せんへい求	17-213
明治3	7月26日		煎餅	500文	一、五百文 煎餅求	17-213
明治3	7月29日		煎餅	400文	一、四百文 煎餅求	17-214
明治3	8月8日		煎餅	400文	一、四百文 煎餅求	17-215
明治3	8月13日		巻煎餅	500文	一、五百文 巻煎餅代	17-215
明治3	8月15日		煎餅	500文	一、五百文 煎餅	17-215
明治3	8月21日		煎餅	500文	一、五百文 煎餅代	17-216
明治3	8月24日		煎餅	500文	一、五百文 煎餅江戸屋遣し候	17-216
明治3	9月26日		煎餅	1貫文	一、壹貫文 煎餅求	17-219
明治3	10月9日		巻せんへい	300文	一、三百文 巻せんへい求	17-221
明治3	10月29日		せんへい	400文	一、四百文 せんへい求	17-223
明治3	10月6日	閏月	煎餅		一、八百文 さつまいも煎餅求	17-224
明治3	10月9日	閏月	せんへい		一、七百文 せんへい油揚求	17-224
明治3	10月11日	閏月	せんべい	400文	一、四百文 せんべい求	17-225
明治3	10月14日	閏月	せんべい		一、壹八百文 せんべいさつまいも求	17-225
明治3	10月17日	閏月	せんへい		一、四百文 せんへい墨代	17-225
明治3	10月18日	閏月	せんへい		一、六百文 せんへいとうふ求	17-225
明治3	10月24日	閏月	せんへい		一、壹百文 さつまいも油揚せんへい求	17-226

年	月日	閏月	項目	金額/数	内容	vol.-pp.
明治3	10月25日	閏月	せんへい		一、壹貫八百文 さつまいも油揚せんへい求	17-226
明治3	10月27日	閏月	せんへい	600文	一、六百文 せんへい求	17-226
明治3	11月19日		せんべい	300文	一、三百文 せんべい求	17-228
明治3	12月12日		せんへい		一、壹 ^〆 三百文 せんへい目ざし求	17-231
明治4	1月11日		亀ノ甲煎餅 巻煎餅	/3束(亀)	たゑ健次郎順之助連北丁江年始行(中略)手拭老筋、亀ノ甲煎餅三束(安兵衛)(中略)砂糖老袋、巻煎餅(江戸屋)	17-246
明治4	1月11日		せんへい	1貫800文	一、壹貫八百文 せんへい求	17-314
明治4	1月28日		巻せんへい		一、壹貫百文 ねぎ求巻せんへい求	17-316
明治4	3月24日		せんべい		一、九百文 天神講せんべい求	17-321
明治4	4月17日		せんべい	1貫文	一、壹貫文 せんべい求	17-323
明治4	4月21日		せんへい		一、八百文 あんま料せんへい求	17-323
明治4	5月16日		煎餅		一、壹貫八百文 金平糖煎餅求	17-325
明治4	5月17日		亀ノ甲煎餅	/1箱	江戸屋おしけとの先日中より不快ニ付太尾村医師へ罷越居候ニ付今日藤四郎頼見舞ニ遣ス 亀ノ甲煎餅壹箱、氷掛金平糖壹箱	17-258
明治4	6月6日		巻せんべい		一、壹貫文 粉茶巻せんべい求	17-327
明治4	6月8日		巻煎餅	800文	一、八百文 巻煎餅求	17-327
明治4	6月23日		巻せんべい	300文	一、三百文 巻せんべい求	17-329
明治4	7月24日		巻せんへい	700文	一、七百文 巻せんへい求	17-332
明治4	8月18日		煎餅	3貫文	一、金貳両一分一朱ト三拾貳文 右湯場細工物并所々土産物求所々土産遣し候 一、三貫文 煎餅求	17-334
明治4	8月21日		亀甲煎餅	3貫文/140枚+α	今日入湯留主中見舞貰候所江土産物配ル 亀甲煎餅三貫文求但百文ニ付六枚宛 土産物遣し候覚 一、塗菓子盆壹枚、煎餅十壹枚(角太郎) 一、茶台付茶盆(与治右衛門隠居) 一、蔦菓子鉢一、茶台一つ、煎餅九枚(平兵衛) 一、蔦菓子鉢一つ、はし箱一つ、煎餅十一枚(甚五郎)(後略)	17-267
明治4	12月8日		巻せんへい		一、壹貫百文 巻せんへい豆腐求	17-346
明治4	12月9日		せんへい		一、壹貫百八十文 さつまいもせんへい里芋求	17-346
明治4	12月26日		巻せんべい	1貫文	一、壹貫文 巻せんべい求	17-348
明治5	1月14日		まきせんへい		一、壹 ^〆 八百文 まきせんへいかし求	17-427
明治5	1月24日		まきせんべい	900文	一、九百文 まきせんべい求	17-428
明治5	4月2日		まきせんべい	800文	一、八百文 まきせんべい	17-434
明治5	4月9日		まきせんへい		一、貳 ^〆 百文 小魚小いかまきせんへい求	17-435
明治5	4月24日		まきせんべい		一、壹 ^〆 百文 まきせんべい砂糖もち求あんま代	17-436
明治5	10月13日		せんべい		一、壹 ^〆 八十文 せんべいあらこ	17-452

年	月日	閏月	項目	金額/数	内容	vol.-pp.
明治6	1月16日		巻煎餅 亀ノ甲煎餅	/1折、1袋(巻) /1袋(亀)	たゑ小嶋方江行江戸屋迄序年始いたし候(中略) 外年始(中略) 煎餅壹折(万年屋江) 亀ノ甲煎餅壹袋(太兵衛江)(中略) 白砂糖壹袋、巻煎餅壹袋(江戸屋江)	18-003
明治6	1月16日		せんべい	900文	一、壹ノ九百文 母上北町へ年始行せんべい求	18-084
明治6	3月13日		せんべい		一、八百文 あんませんべい	18-089
明治6	4月1日		せんべい	300文	一、三百文 せんべい求	18-091
明治6	5月22日		巻せんべい		一、七百文 やき豆腐巻せんべい求	18-096
明治6	5月29日		巻せんべい		一、壹ノ貳百文 巻せんべい髪せん	18-097
明治6	6月12日		せんべい		一、四百文 髪ゆいせんべい	18-099
明治6	7月29日		せんべい		一、五百五十文 せんべい髪ゆい	18-104
明治6	8月6日		しをせんべい	400文	一、四百文 しをせんべい	18-105
明治6	8月7日		せんべい	500文	一、五百文 せんべい役人出ス	18-105
明治6	8月8日		塩せんべい	420文	一、四百二十文 塩せんべい	18-105
明治6	8月18日		せんべい		一、九百文 せんべいとうふ	18-106
明治6	8月21日		塩せん 巻せん		一、七百五十文 上花塩せん巻せん	18-107
明治6	9月1日		塩せんべい		一、六百五十文 上花いわし塩せんべい	18-108
明治6	9月7日		巻せんべい		一、八百文 巻せんべい釜いかけ代金しやく共	18-109
明治6	9月13日		せんべい		一、七百文 せんべい髪ゆい	18-110
明治6	9月18日		塩せんべい		一、九百文 塩せんべいさつま芋	18-111
明治6	11月1日		塩せんべい		一、壹貫五百五十文 髪ゆい塩せんべいくり台直しあんま豆腐	18-115
明治6	11月4日		しをせんべい		一、壹貫貳百五十文 神明宮御神酒銭才銭しをせんべい神楽小	18-115
明治6	11月28日		塩せんべい		一、九百十文 塩せんべい髪ゆい豆腐	18-117
明治6	12月8日		せんべい		一、壹貫五百五十文 せんべい髪ゆいあんま	18-117
明治6	12月11日		塩せんべい		一、八百文 塩せんべいさつま芋	18-118
明治6	12月14日		塩せんべい		一、壹ノ百文 牛房塩せんべい樽かぎ	18-118
明治6	12月31日		塩せんべい	300文	一、三百文 塩せんべい求	18-123
明治7	8月22日		有平巻		今日近所へ土産遣し候 繰ヌキ御鉢壹つ、丸盆貳枚、有平巻折(江戸屋江遣ス)(後略)	18-173
明治8	2月22日		巻せんべい		今朝江戸屋孝知殿父病氣見舞ニ被参候巻せんべい折持参	18-290
明治8	7月8日		亀甲煎餅 煎餅	/11枚(亀) /48枚(煎)	去月十四日昭房たゑ連箱根入湯ニ罷越昨日帰宅いたし候ニ付留主見舞到来之处へ土産遣し候(中略) 糸巻三枚、小箸十膳、シフリ壹枚、亀甲煎餅十一枚(覚太郎方江)(中略) 糸巻三枚、小箸十せん、笛壹ツ、煎餅十一枚(末よしや)(後略)	18-318

年	月日	閏月	項目	金額/数	内容	vol.-pp.
明治8	8月25日		亀甲せんべい	/12枚	昭知留守見舞到来ニ付土産配ル(中略)一、御札、印にく、丸盆壹枚、亀甲せんべい十二枚(善右衛門)(後略)	18-329
明治9	9月2日		亀楽せんべい	/1折	おたゑ午後江戸屋へ行夜ニ入帰宅 亀楽せんべい老折白玉粒少々持参	19-039
明治10	4月21日		唐松せんべい		先日陀ノ目より留主見舞到来ニ付昨日帰宅直ニ土産遣し候 日光唐からし小箱一つ、唐松せんべい折、うちハ壹本(久次郎方へ遣ス) 向直幸殿よりも魚到来ニ付今日土産遣ス 日光唐からし小箱二ツ、唐松せんべい老折(直幸江) 覚太郎殿より不参候ニ付唐松せんべい少々紙包敬太郎へ遣し候	19-146
明治10	4月22日		唐松せんべい		かぢや利助方よりむつ式本到来ニ付 日光唐からし一、唐松せんべい袋入、艸そうし染遣し候	19-146
明治10	5月14日		唐松せんべい	/1折	陀ノ目久次郎儀昨夜成田参詣帰宅之由土産到来 唐松せんべい一折、成田山御札、芝山仁王尊御札	19-150
明治10	7月31日		煎餅	/101枚	温泉中留主見舞到来之处土産昨日配ル 猪口、ハカマ、煎餅十五枚(直幸方江) 茶代、アンマ、道了宮御札、煎餅十一枚(角太郎)(後略)	19-162
明治10	9月7日		常盤屋		午後昭房神奈川行法事盛物饅頭詔常盤屋江行夫より紀三江立寄政次郎事少々眼病之由ニ付見舞	19-173
明治10	9月9日		常盤屋		一昨日神奈川常盤屋江盛物饅頭数百八拾頼但一ツニ付銀七分宛	19-173
明治10	9月9日		常盤屋		一、金貳円拾銭 法事盛物まんぢう数百八十常盤屋払	19-245
明治10	9月11日		亀ノ甲煎餅		今朝昭知東京本八町堀式丁目丹波屋へ順之助衣類持参(中略) 当方より初メて便り参り候ニ付主人江土産 亀ノ甲煎餅壹箱、いな開キ式拾五枚、梨子式拾壹遣し候 亀ノ甲煎餅袋入見せへ遣し候	19-175
明治10	11月6日		煎餅		出見世小兒三才賀ニ付綿銘仙半反祝遣し候おたゑ持参江戸屋へ煎餅折持参夜ニ入帰り	19-185
明治11	2月27日		亀楽センベイ		昭知岸午頭嘉重殿并岸泉立司兩人儀先頃中より不快ニ付見舞ニ行 白砂糖壹袋(午頭へ)、亀楽センベイ折(岸泉へ)	19-273
明治11	6月21日		亀ノ甲	15銭	一、金十五銭 亀ノ甲壹箇求代払	19-343
明治11	6月30日		大亀ノ甲		本宮又蔵方より大亀ノ甲求	19-295
明治11	8月11日		亀ノ甲煎餅		今朝昭知治郎吉人力車ニ而戸塚へ行(中略) 其外親類四軒江亀ノ甲煎餅折持参	19-305
明治11	8月15日		あるへい巻煎餅		今朝紀三大主人并両国呉服屋平兵衛来りお駒仏参いたし候酒食出ス あるへい巻煎餅(平兵衛より)	19-307
明治11	8月15日		常盤屋		一、金四円四十一銭六厘 盛物まんぢう代常盤屋払	19-346
明治11	8月16日		常盤屋		妙倫大姉三拾五日ニ付盛物饅頭数五百三十先日常盤屋頼本日	19-307

年	月日	閏月	項目	金額/数	内容	vol.-pp.
明治11	10月14日		常盤屋		昭知横浜江行上三一件序神奈川常盤屋へ盛物饅頭頼	19-318
明治11	10月18日		常盤屋		一、金壹円六拾壹銭七厘 法事ニ付常盤屋より盛物まんぢう代払	19-349
明治11	10月19日		常盤屋		今午前十一時過平次郎神奈川常盤屋江盛物小麦饅頭并引菓子取ニ行序神奈川両家江直ニ盛物配リ	19-320
明治12	5月7日		常盤屋		妙倫大姉老周忌取越いたし候積ニ付盛物まんぢう数式百式拾常盤屋へ頼遣し候	20-028
明治12	5月10日		常盤屋		妙倫大姉老周忌取越法会いたし候ニ付盛物まんぢう本日常盤屋江取ニ行配ル	20-028
明治12	5月10日		常盤屋		一、金貳円貳十銭 法事ニ付盛物まんぢう式百式十代常盤屋払	20-099
明治12	5月12日		常盤屋		一、金壹円六十八銭 引菓子十二人分常盤屋払	20-099
明治12	5月24日		亀甲せんへい 亀ノ甲せんへい		本日おたゑおふみ連戸塚江行鏡治同車 (中略) 一、亀甲せんへい折、風呂しき一つ(中升江) (中略) 一、亀甲せんへい折、餅菓子是ハ病氣見舞(升忠江) 一、鯉節五本袋入、亀ノ甲せんへい折、蚕豆(八升江)	20-033
明治12	7月29日		せんべい		留主見舞到来之内江土産物遣し候 (中略) 箱入十膳箸一、笛一つ、せんべい(末よしや) (後略)	20-044
明治13	1月8日		唐松(?)		昨七日おたゑ鏡治連北町へ年始行夜ニ入帰り左之通年玉遣し候 (中略) 唐松折(勘次郎) (後略)	20-124
明治13	1月24日		せんへい	/1箱	陀ノ目久次郎儀足ケがいたし候ニ付昭知見舞ニ遣しせんへい壹箱	20-126
明治13	8月23日		巻煎餅		夜ニ入八ノ字姉出見世姉おたゑ見舞ニ来リ 巻煎餅折(八ノ字)、梨子(出見世)	20-160
明治13	12月25日		せんべい		せんべい袋入さつまいも蓮根等来リ	20-184
明治14	4月19日		アルヘイ		一、金壹円二十七銭 横浜行羽折シモ前掛シモ因土産アルヘイ壹折車賃中喰	20-315
明治14	8月13日		煎餅	/63枚	順之助富士山詣帰り留主見舞到来之仁江土産配ル 団扇壹本、御札、煎餅十二(末よしや) 同断(藤吉) 御札、団扇貳本、煎餅十五(陀ノ目) 御札、団扇壹本、煎餅十二(万年屋) 同断(鶴吉)	20-262
明治14	10月23日		亀ノ甲せんべい	/1袋	かじやより昨日貸遣し候膳わん返却ニナル亀ノ甲せんべい壹袋添	20-276
明治15	10月18日		亀ノ甲せんべい	/1袋	午后三時過根本おとし殿帰り八升祖母君送旁立寄車夫三名へ茶漬出ス栗壹袋亀ノ甲せんべい壹袋祖母土産	20-405
明治15	10月21日		亀の甲せんべい		横浜泉屋伊兵衛殿近火見舞ニ来リ亀の甲せんべい折持参	20-407
明治16	1月15日		せんべい、 亀の甲せんべい	20銭/1折(せん) 20銭/1折(亀)	未年戸塚駅年玉 一、上半切百枚、桐箱入いろはかるた、せんべい折二十銭分外まこ五枚遣ス(仁右衛門) 一、亀の甲せんべい二十銭折、半紙貳状(仁兵衛) (後略)	21-111

年	月日	閏月	項目	金額/数	内容	vol.-pp.
明治16	1月16日		せんべい	40銭/1折	一、弍円六銭 四十銭せんべい折也、二十銭車夫安へ内渡、二十六銭同人めし挽車、壹円二十銭江戸島鎌倉へ回り諸費	21-078
明治16	2月10日		塩せんべい		北町太郎兵衛よりバカむき身壹はん台塩せんべい少、お銀殿持参	21-008
明治16	2月23日		ある平	/1重	午前八時前神奈川両家へ通知候ニ付大黒屋より御殿町ば、見舞ニ来リ一両日世話致し候積左ノ品来ル 一、ある平、ぶつ切 弍重持参 (後略)	21-012
明治16	3月26日		亀の甲せんべい		午前八の字新三郎氏立寄今般同家婚姻之儀ニ付種々談合シ夫より江戸屋へ参り帰路被立寄候ニ付酒出し候土産ニ亀の甲せんべい	21-018
明治17	正月		亀ノ甲せんべい	20銭/1折	申歳々賀到来 (中略) 一、亀ノ甲せんべい二十銭折、すご六、半紙弍(八升) (後略)	21-211
明治17	1月21日		せんべい	10銭	午前十時過ふみひさヲ同車し神奈川へ年始ニ行 (中略) ○せんべい十銭(中健)	21-118
明治17	2月17日		せんべい		午後二時過本年下女之儀寺尾持丸源蔵娘千代と申者七之助方世話ニテ本日母送り来り候当十六才之由土産ニせんべい折持参	21-122
明治17	2月25日		せんべい		きしよへ下女世話礼ニ足袋壹足遣し候同断彦八へせんべい折遣	21-122
明治17	5月15日		せんべい		一、四十五銭 せんべい菓子	21-190
明治17	7月16日		せんべい		湯治場土産左之通配ル ひだ製袴、せんべい三銭(覚太郎方へ) はし箱、ひだ、はかま、手遊、せんべい(かじやへ) (後略)	21-147
明治17	8月1日		亀の甲せんべい		先年相雇候お針のお来り亀の甲せんべい折持参ノ由	21-150
明治17	8月2日		せんべい		午前戸塚八升祖母来車あじ開きさつま芋せんべい折持参	21-150
明治17	9月2日		せんべい		一、四十九銭八厘 ぬい糸十六銭、油せんべい十五銭、人車賃上下十五銭	21-198
明治17	11月24日		亀ノ子せんべい		午后紀三隠居母并健次郎妻なみ房三子守同車見舞ニ来酒飯出し夕刻帰ル (中略) 一、白砂糖壹袋、亀ノ子せんべい(中健)	21-165
明治17	11月26日		せんべい	10銭/1袋	かじや三女不快ノ由ニ付せんべい十銭袋入持参遣ス	21-166
明治18	4月23日		塩せんべい		角蔵と申もの今般順之助分家候上召遣ヒ候積ニテ相雇本日母同道来ル塩せんべい持参	21-235
明治20	3月3日		亀ノ甲煎餅	/1折	北町巳之助昭知見舞亀ノ甲煎餅一折持参	21-382
明治20	3月4日		亀ノ甲煎餅	/1折	おとら義臨月ニ付昨日母親来り止宿今日后里江産ニ連行子蔵藤吉荷物行当方より小田へ亀ノ甲煎餅壹折干菓子壹折遣し候	21-383
明治21	3月26日		せんべい		父温泉行ノ土産左ノ通諸所へ配ル (中略) タバコ入箱、茶だい一、智恵のこま一箱、せんべい(利助へ) たばこ入箱一、ボン一、茶だい一、糸まき三、せんべい(勘四郎へ)	22-017
明治21	8月31日		せんべい		昨午后二時頃戸塚内山豊次郎来車仁右衛門氏ト争論致シ家出致シ居候間当家父ニ掛合致シ呉候様申出タリト せんべい折持参ス	22-043

関口日記調査表

年	月日	閏月	項目	金額/数	内容	vol.-pp.
明治21	9月19日		せんべい	/1折	郡役所へ行四時半ヨリ丹下へ立寄せんべい折一つ外せうが赤飯一重遣ス	22-047
明治22	5月27日		せんべい	8銭	昨夜父帰宅ノ後谷川へ行土産ニ子供弁当入一箇せんべい八銭ヲ	22-101
明治22	7月13日		せんべい	/1袋	夕刻三井貞次郎来り面会セズせんべい一袋持参	22-110
明治23	7月28日		亀ノ甲せんべい	20銭/1袋	夕刻丹下お千賀新町迄参り候由ニテ序ニ見舞トシテ菓子折一ツ亀ノ甲せんべい二十銭袋入持参直ニ帰ル	22-192
明治23	8月7日		カルルスせんべい		丹下父九時頃より被参夕刻被帰候 見舞ニカルルスせんべい外品々持参	22-194
明治23	12月10日		カルルスせんべい	/1鐘	父へカルルスせんべい一鐘見舞	22-220
明治24	4月23日		巻せんべい 亀ノ甲せんべい	30銭/1折 30銭/1折	昨夜浜松大米屋泊り今昼前坂井村陸井本店へ着同家へ巻せんべい三十銭ノ折更砂風呂敷四ツシヤボン三ツ箱入郵便はかき五十銭計 日比安左衛門へ亀ノ甲せんべい三十銭ノ折	22-247
明治25	1月24日		巻せんべい	/1袋	平本よりハ巻せんべい一袋到来ス	22-282
明治25	5月15日		せんべい	60銭/2折	せんべい折三十銭ツノ日比ト兩人へ遣ス	22-299
明治26	2月19日		せんべい		江戸屋おぎん年始ニ来ルせんべい折持参	22-342
明治28	4月8日		せんべい		順之助泊り候せんべい持参	23-028
明治28	5月24日		亀ノ子せんべい		良信及おさく参り亀ノ子せんべい折	23-034
明治30	5月25日		亀の甲せんべい		三時丹下親父来車亀の甲せんべい折煮染一重持参泊ル	23-071
明治30	11月6日		せんべい		大こくや姉昨日より手伝ニ頼置候塩蒸ようかんせんべい貰候	23-089
明治31	11月11日		瓦せんべい	20銭	関口権右衛門氏見舞ニ来る (中略) 一、瓦せんべい二十銭位 (関口権右衛門)	23-162
明治31	12月17日		鳩麦せんべい	/1本	斎三郎氏より鳩麦せんべい一本到来両氏へ夕飯を出す	23-169
明治33	8月27日		巻せんべい	4、50銭/1折	伊東与右衛門より使来り村税金三十六円四十銭二厘持参外ニ巻せんべい折到来四五十銭か	23-227
明治33	9月2日		巻せんべい		ひさいゑノ兩人四時より丹下へ行寺参り致七時帰宅巻せんべい折	23-228
明治34	4月17日		亀の甲せんべい	20銭?/1折	吉田清慎亀の甲せんべい折二十銭か持参	23-289
明治34	4月22日		亀の甲せんべい	/1折	信郎昼前田辺へ行タルヤ不見昼飯後英次田辺へ問合ニ行亀の甲せんべい一折遣ス	22-290
明治34	12月5日		せんべい		鏡治昨夜英次より書面遣し候ニ付十一時来車せんべい持参	22-334

東海道神奈川宿名物 亀の甲せんべい資料集

編集 横浜市神奈川図書館

発行 横浜市神奈川図書館

〒221-0063

神奈川県横浜市神奈川区立町20-1

電話 045(434)4339

発行日 平成13年(2001年)3月1日

館内

神奈川 ☎434-4339

横浜市立図書館



2024156853